認　定　書

国住指第 3558 号
平成 21 年 1 月 9 日

寺岡オートドア株式会社
代表取締役社長　吉田　敬　様

国土交通大臣　　金子　一義

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 112 条第 1 項（特定防火設備）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
   EA-0285

2. 認定をした構造方法等の名称
   耐熱板ガラス入鋼製片引き戸（片開き機構付き）

3. 認定をした構造方法等の内容
   別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別　添

1. 構造名：
耐熱板ガラス入鋼製片引き戸（片開き機構付き）

2. 申請仕様の寸法：
申請仕様の寸法を表1に示す。

表１　申請仕様の寸法

項　　目	申　請　仕　様
枠外幅　（WW）	1225～3200mm
枠内幅　（W）	1150～2950mm
開口幅　（W０）	520～1425mm
扉幅　（DW）	612～1517mm
開き戸扉幅　（ｄｗ）	519～1424mm
Ｆｉｘ扉幅　（ＦｉｘDW）	675～1635mm
ガラス開口幅　（GW１）	292～1197mm
ガラス開口幅　（GW２）	555～1450mm
ガラス開口幅　（GW３）	462～1367mm
枠外高さ　（HH）	920～3100mm
開口高さ　（H）	620～2600mm
扉高さ　（DH）	638～2618mm
開き戸扉高さ　（ｄｈ）	535～2515mm
Ｆｉｘ扉高さ　（ＦｉｘDH）	628～2608mm
扉ガラス開口高さ　（GH１）	303～2283mm
扉ガラス開口高さ　（GH２）	428～2408mm
上枠（無目）見付寸法（駆動装置有り）（ａ）	320～ 500mm
上枠（無目）見付寸法（駆動装置なし）（ａ1）	200～ 500mm
上枠（無目）見込寸法　（ａ2）	224～ 344mm
たて枠見付寸法　（ｂ）	30～　90mm
たて枠見込寸法　（ｂ2）	230～ 350mm
大扉上框見付寸法　（ｃ）	100～ 350mm
開き戸上框見付寸法　（ｃ2）	82～ 300mm
開き戸下框見付寸法　（ｃ3）	150～ 500mm
開き戸戸先たて框見付寸法（ｃ4）	97～ 300mm
大扉戸尻たて框見付寸法　（ｃ5）	75～　85mm
開き戸戸尻たて框見付寸法（ｃ6）	97～ 300mm
引き戸上框見付寸法　（ｃ7）	100～ 300mm
引き戸下框見付寸法　（ｃ8）	110～ 500mm
引き戸戸先たて框見付寸法（ｃ9）	75～ 300mm
引き戸戸尻たて框見付寸法（ｃ10）	75～ 300mm
Ｆｉｘ上枠見付寸法　（ｄ）	90～ 300mm
Ｆｉｘ下框見付寸法　（ｄ2）	110～ 500mm
方立見付寸法　（ｄ3）	75～ 300mm
Ｆｉｘたて枠見付寸法　（ｄ4）	30～　85mm
周壁部の仕様	湿式工法*1又は乾式工法*2

（注）*1　湿式工法：セメントモルタル・耐火壁等
　　*2　乾式工法：せっこうボード（厚さ15mm２枚重張）等

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表２に示す。

表２ 申請仕様の主構成材料

項　　目	申　請　仕　様
上枠（無目） たて枠 幅木 大扉上框 開き戸上框 引き戸上框 開き戸下框 引き戸下框 大扉たて框 開き戸戸先たて框 開き戸戸尻たて框 引き戸戸先たて框 引き戸戸尻たて框 方立 Ｆｉｘ上枠 Ｆｉｘたて枠 押縁 レール台板受け	冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC 厚さ　1.6mm
下レール	冷間圧延ステンレス鋼板（JIS G 4305）SUS304　厚さ　1.0～2.0mm
補強材１	冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC　厚さ　1.6mm
補強材２	冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC　厚さ　2.3mm
補強材３	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400　L－50×50×6mm
補強材４	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400　L－40×40×5mm
補強材５	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ 6mm、 幅　50mm
補強材６	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ 4.5mm、 幅　50mm
補強材７	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ　6mm、幅　38mm
補強材８	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ　6mm、幅　44mm
補強材９	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ　6mm、幅　50mm
耐熱板ガラス	耐熱板ガラス 厚さ6.5mm又は8mm（許容差　±0.3mm） ガラスの種類：ほうけい酸ガラス 熱膨張係数：3.3×10^{-6}／℃（常温～350℃） 密度：約2.2g/cm^3 面内許容応力：10237N／m^2（1044kgf／m^2）

4. 申請仕様の副構成材料：
申請仕様の副構成材料を表３に示す。

表３ 申請仕様の副構成材料

項　　目	申　請　仕　様
アンカー	冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC 厚さ　2.3mm、取付間隔　350mm以下
目隠し板	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 FB. 厚さ　6mm、幅　50mm
Ｆｉｘ固定金具	冷間仕上げステンレス鋼棒（平鋼、JIS G 4318）SUS304 厚さ　16mm、幅32mm
ケースハンドル	①又は② ①熱間圧延ステンレス鋼板（JIS G 4305）SUS304 厚さ　1.0mm ②なし
引き手	①又は② ①なし ②熱間圧延ステンレス鋼板（JIS G 4305）SUS304 厚さ　1.0mm
ラッチボルト	①又は② ①一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS330 ②なし
ガラス押え	シリコーン系
バックアップ材	セラミックテープ 厚さ　4.25mm、幅　17mm
セッティングブロック	繊維混入けい酸カルシウム板 大きさ　10～12×6×50～100mm
上レール	アルミニウム合金押出形材（JIS H 4100） 厚さ　5.0～9.9mm
吊板	冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC 厚さ　4.0mm及び6.0mm
戸車	ポリアミド樹脂（JIS K 6920）
オートパワーヒンジ	①又は② ①一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400　油圧式 ②なし
振れ止め	一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101）SS400 断面寸法　12×24mm、幅80mm
駆動装置	①又は② ①アルミニウム合金押出形材（JIS H 4100） 及びアルミニウム合金ダイカスト（JIS H 5302） 及び冷間圧延鋼板（JIS G 3141）SPCC 厚さ　1.6mm及び3.0mm ②なし
自動閉鎖装置	①又は② ①アルミニウム合金押出形材（JIS H 4100） 厚さ　1.5～2.5mm ②ばね用ステンレス鋼帯（JIS G 4313）SUS304-CSP SUS301-EH 厚さ　0.2～0.35mm

つづく

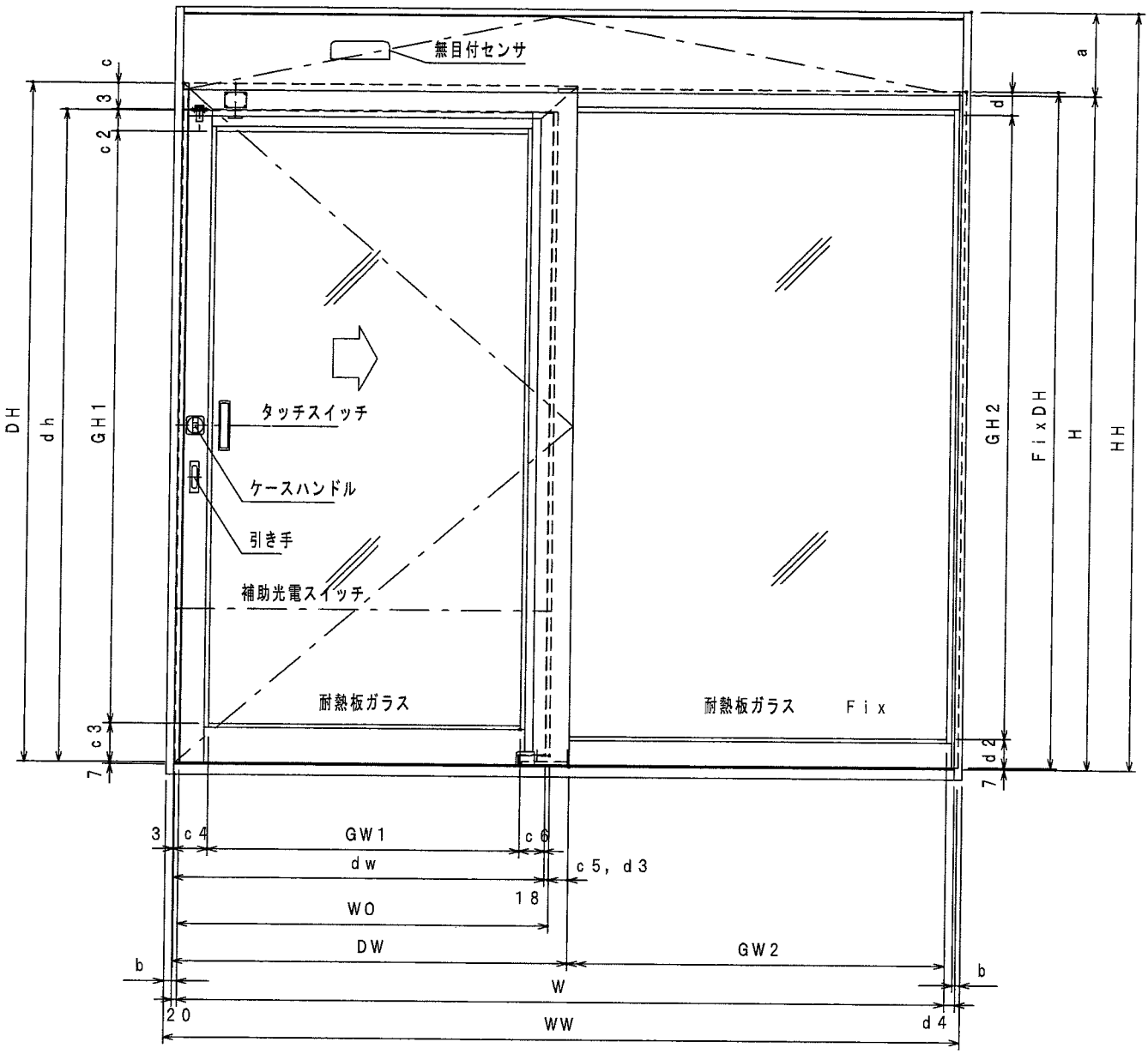
つづき

項　　目	申　請　仕　様
検出装置（無目付センサ）	①又は② ①ＡＢＳ樹脂 ②なし
検出装置（タッチスイッチ）	①又は② ①ポリカボネート ②なし
補助光電スイッチ	①又は② ①透過型光電スイッチ　ＡＢＳ樹脂 ②なし
加熱発泡材	カーボングラファイト系 厚さ　1.5mm、幅　10mm
さび止め塗料	鉛酸カルシウムさび止めペイント（JIS K 5629）
押縁留小ねじ	材質：ステンレス鋼棒（JIS G 4303）　SUS304 胴部径Ｍ４×長さ20～25mm

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図１～図１７に示す。

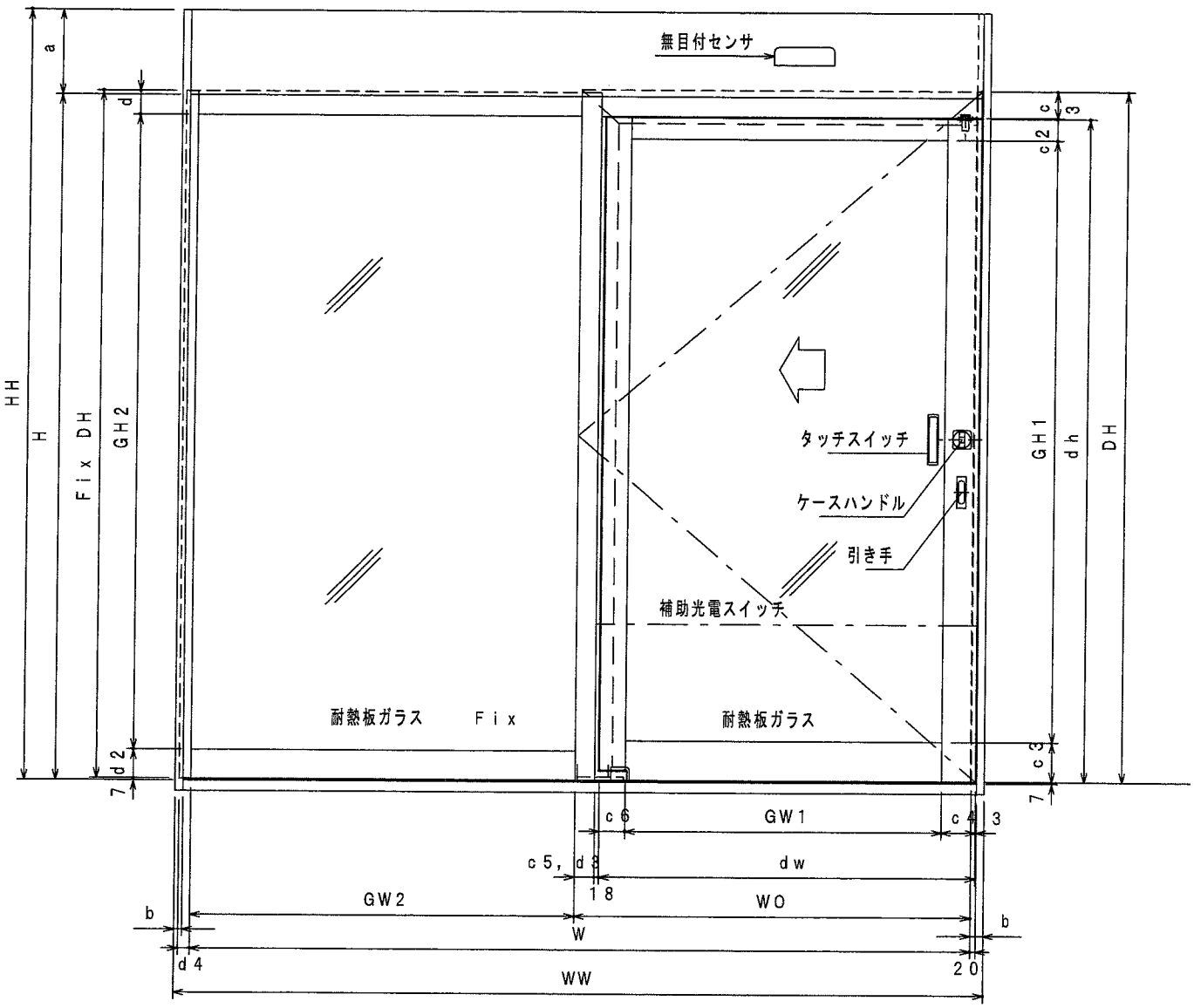
（単位　mm）



室内側立面図（開き戸機構付）

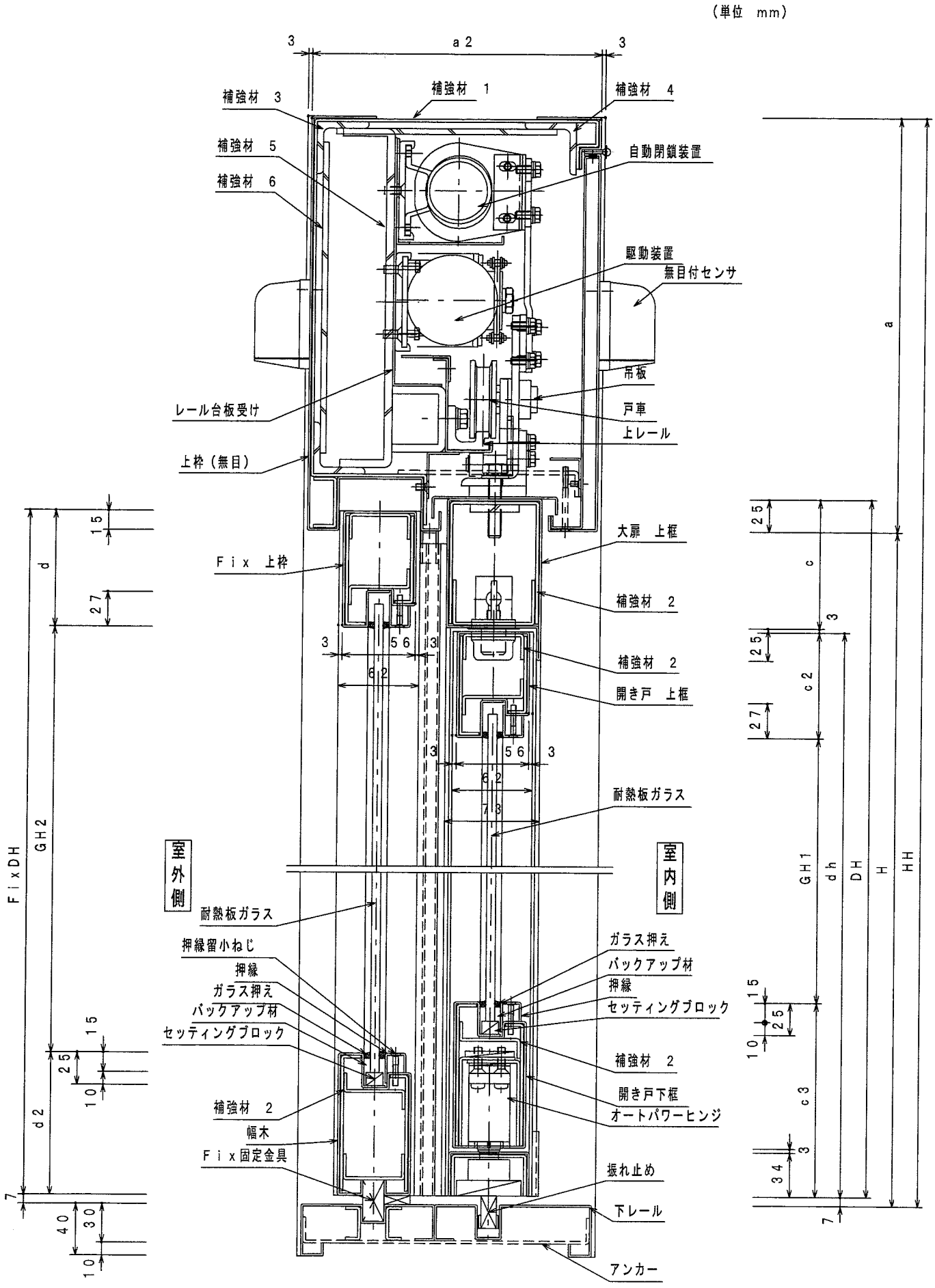
図1　構造説明図

（単位　mm）



室外側立面図（開き戸機構付）

図２　構造説明図

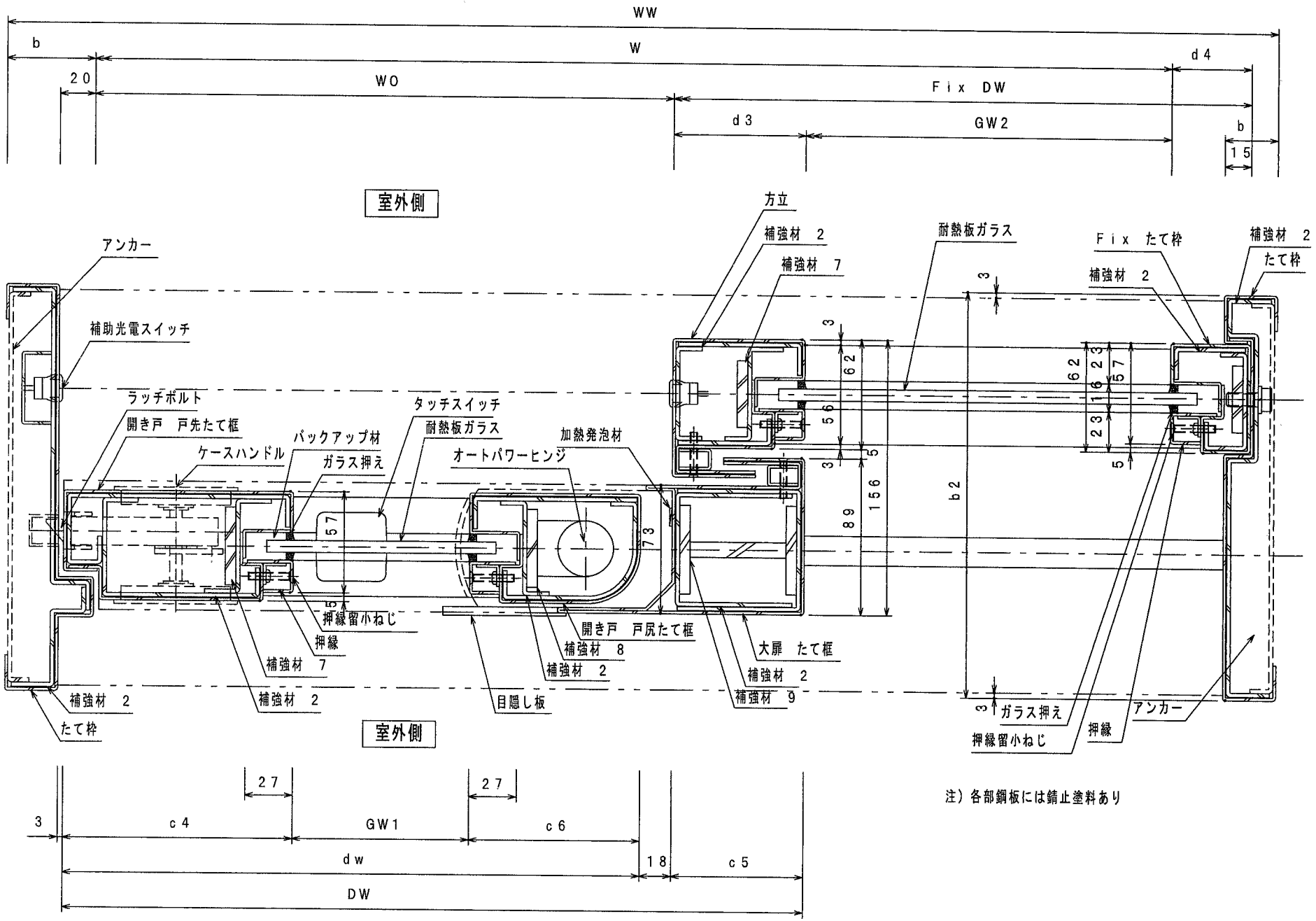


鉛直断面図（開き戸機構付）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図３　構造説明図

図4　構造説明図

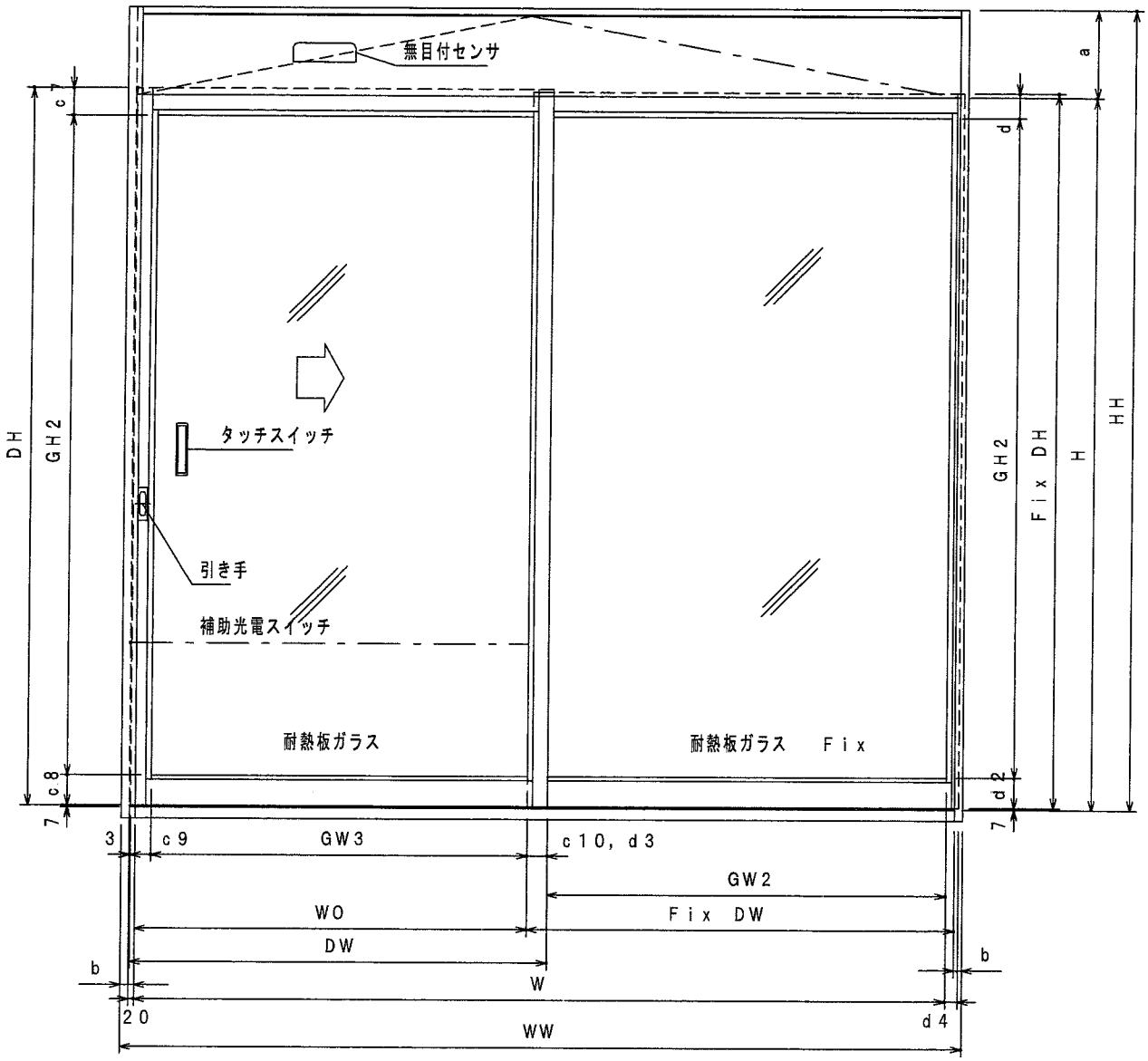


注）各部鋼板には錆止塗料あり

水平断面図（開き戸機構付）

（単位 mm）

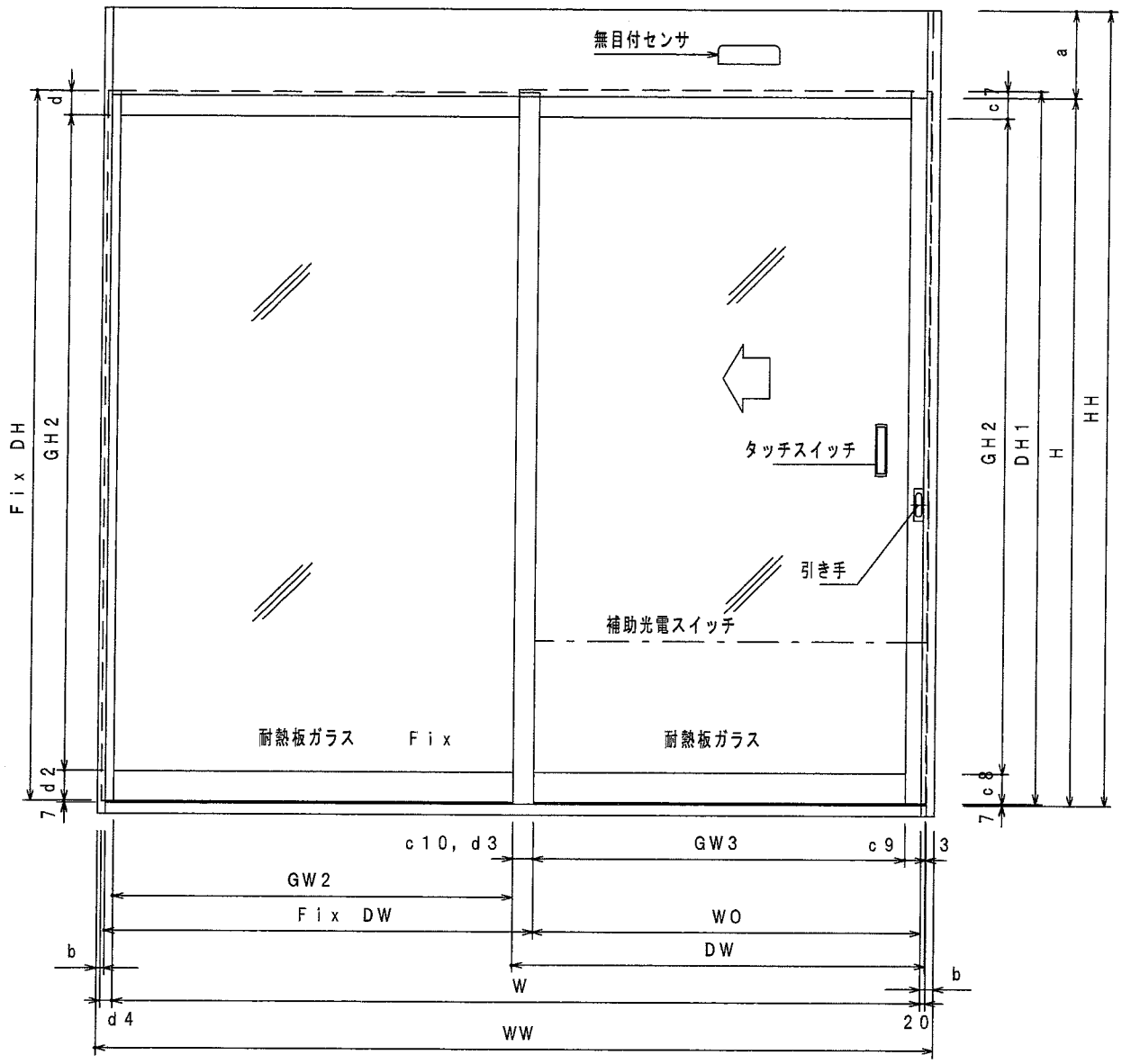
（単位　mm）



室内側立面図（開き戸機構無し）

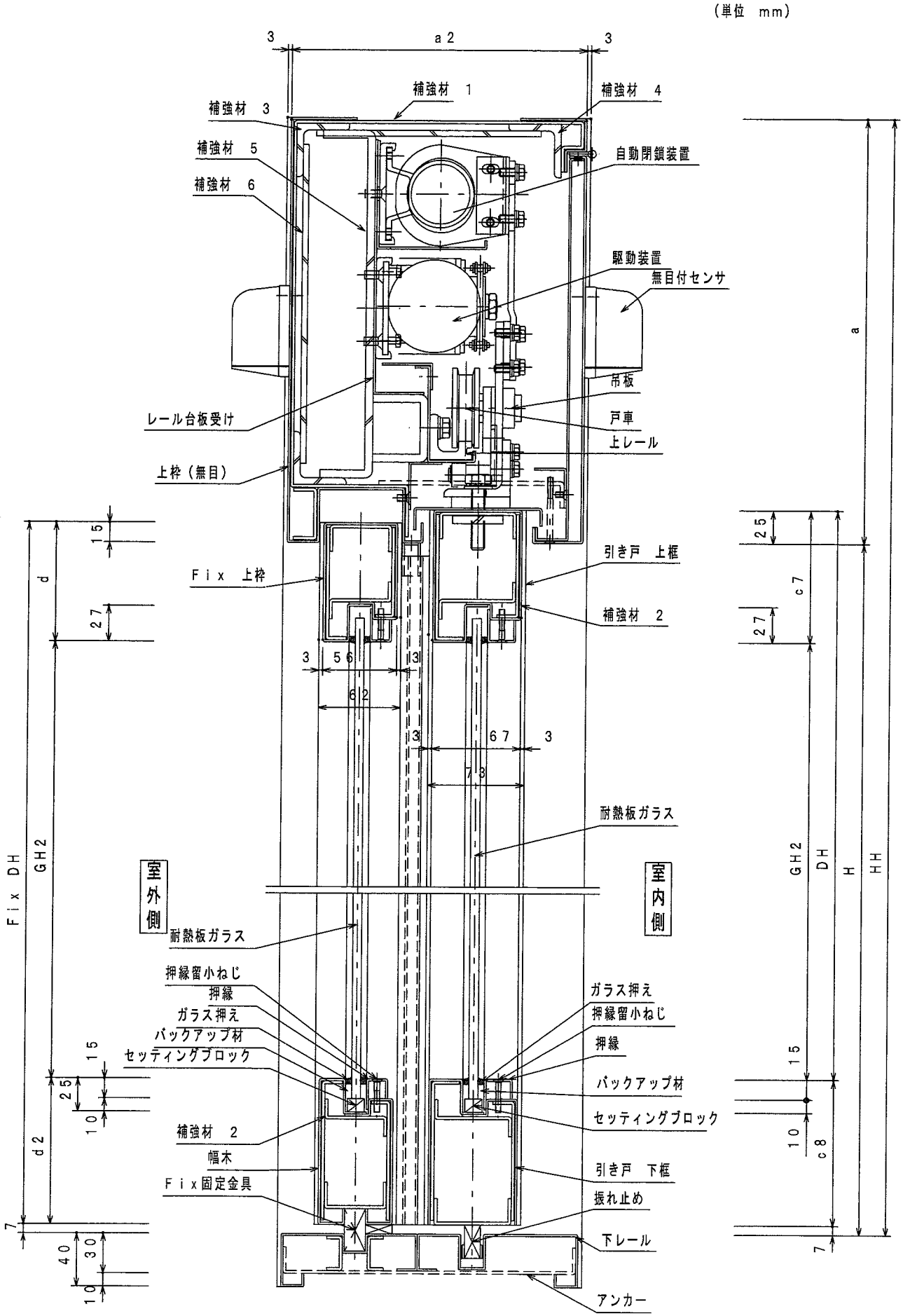
図5　構造説明図

（単位　mm）



室外側立面図（開き戸機構無し）

図6　構造説明図

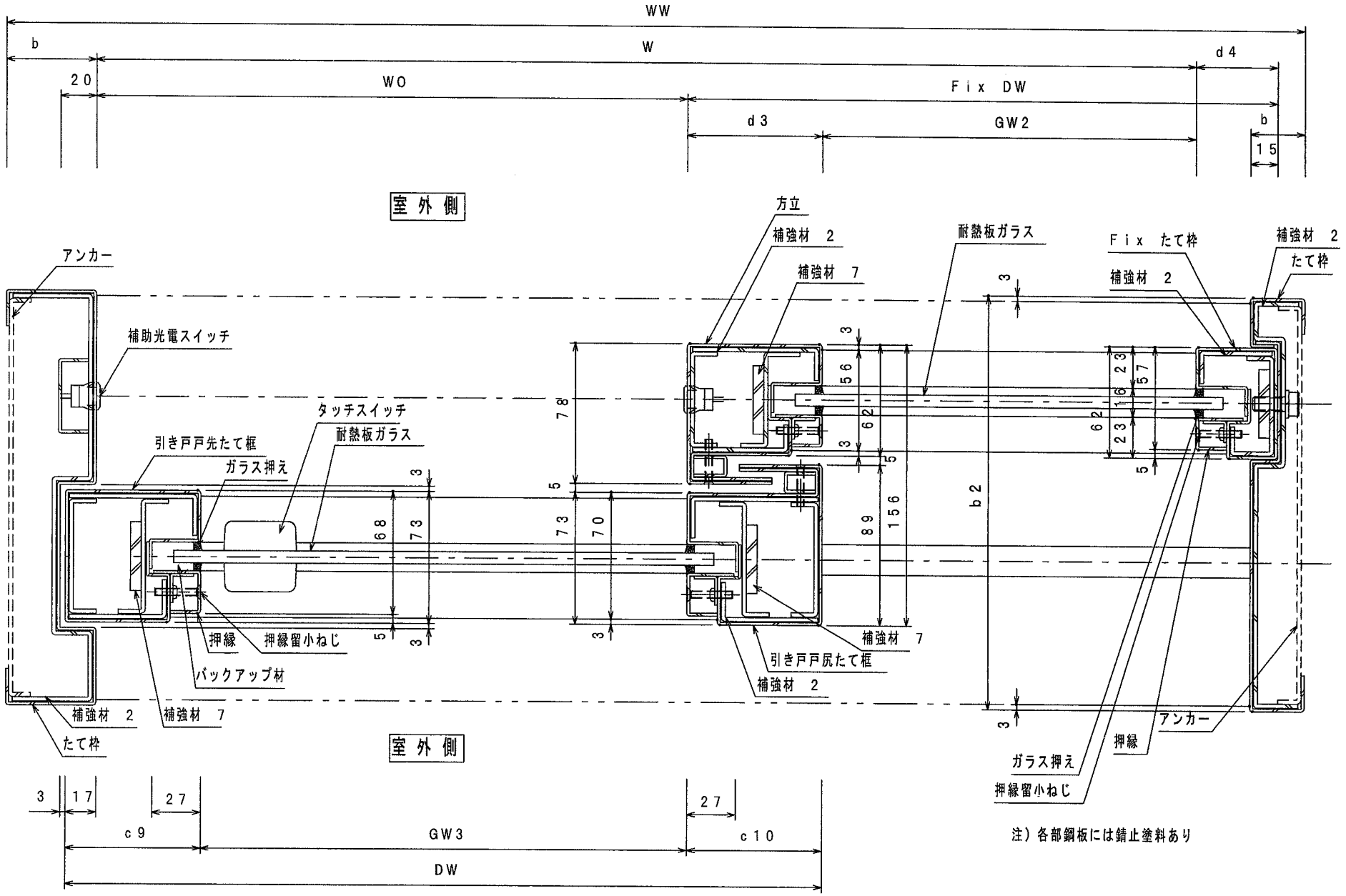


鉛直断面図（開き戸機構無し）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図7 構造説明図

図8 構造説明図

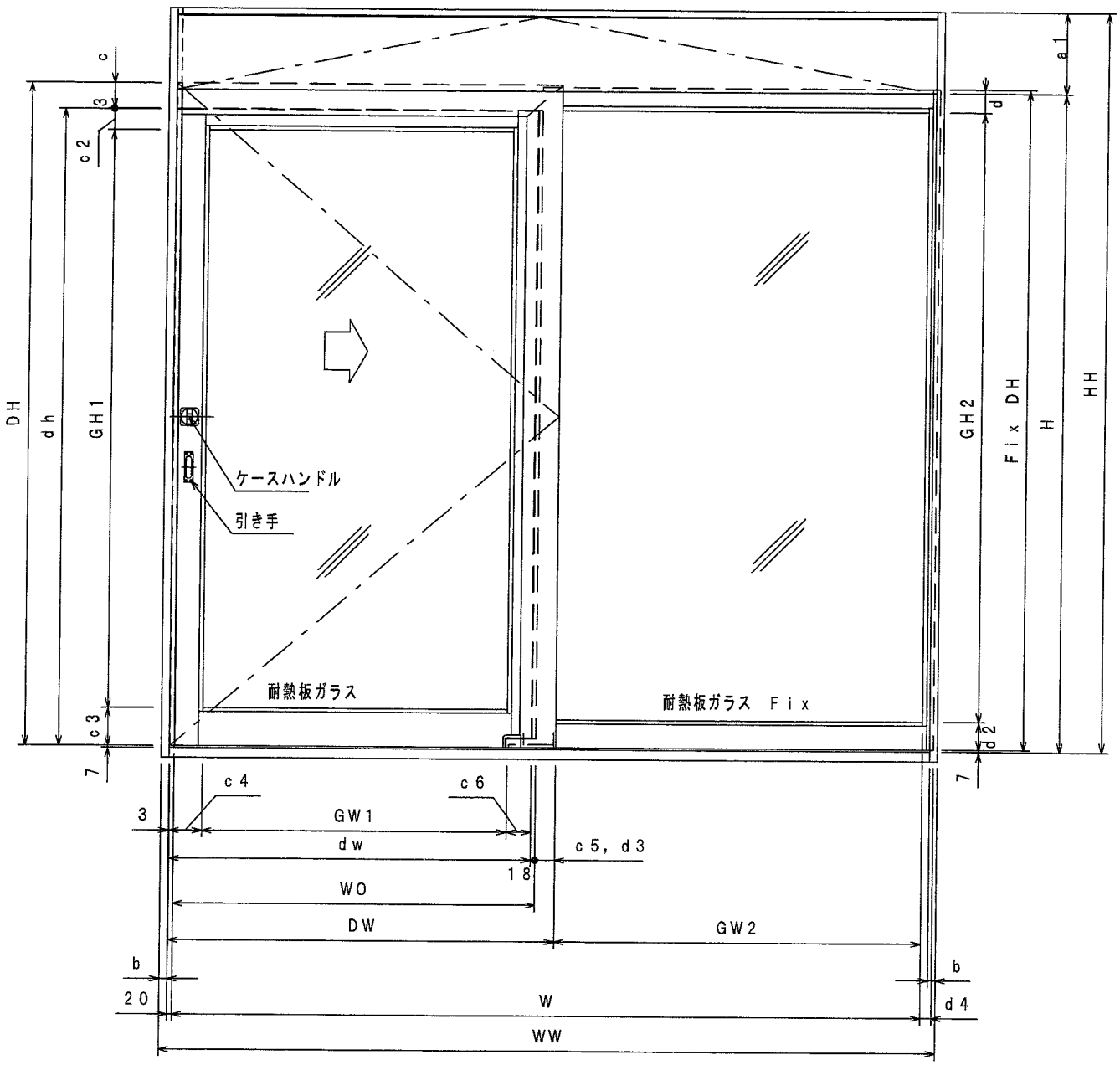


注）各部鋼板には錆止塗料あり

水平断面図（開き戸機構無し）

（単位 mm）

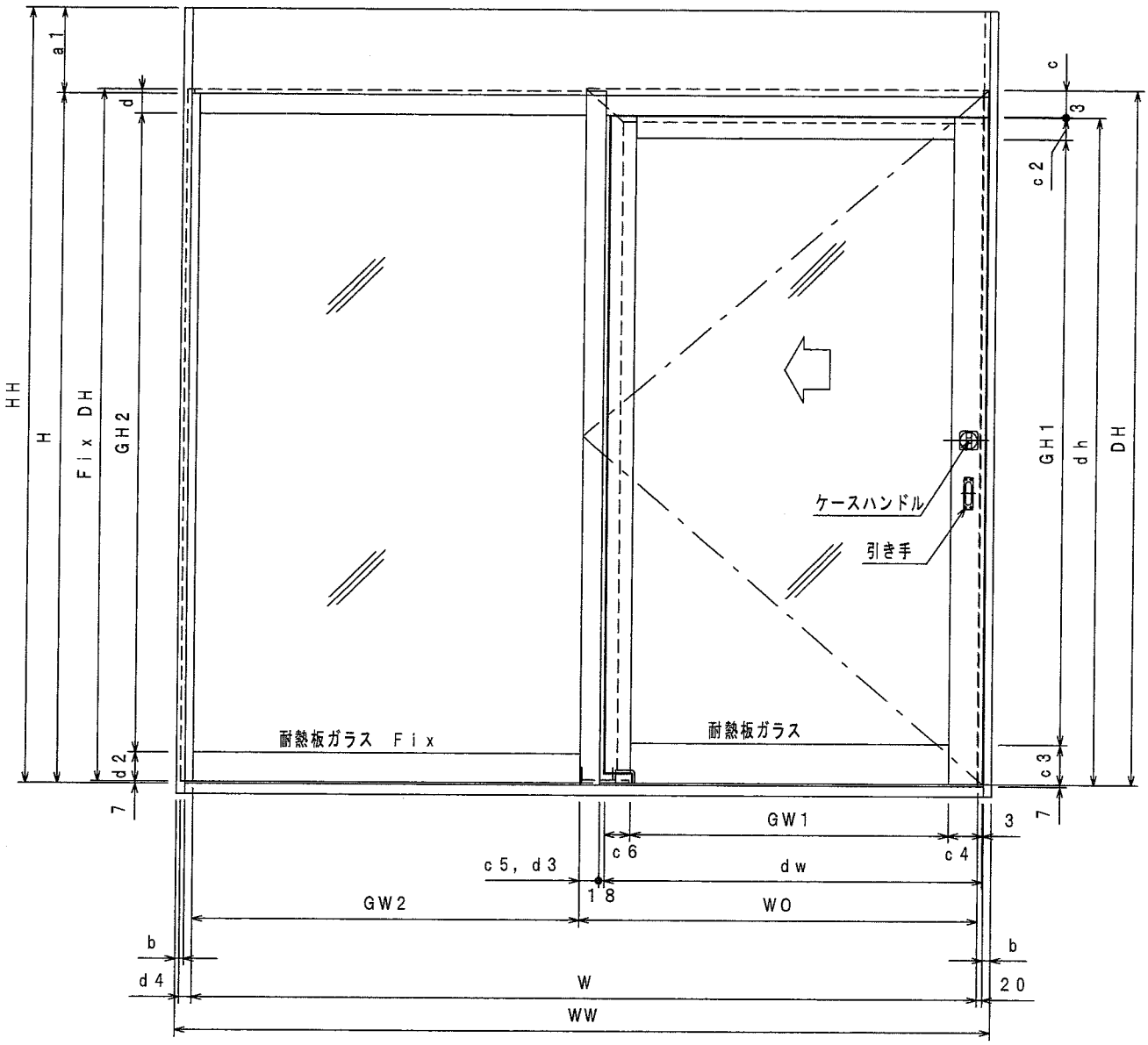
（単位　mm）



室内側立面図（開き戸機構付　手動引き戸）

図9　構造説明図

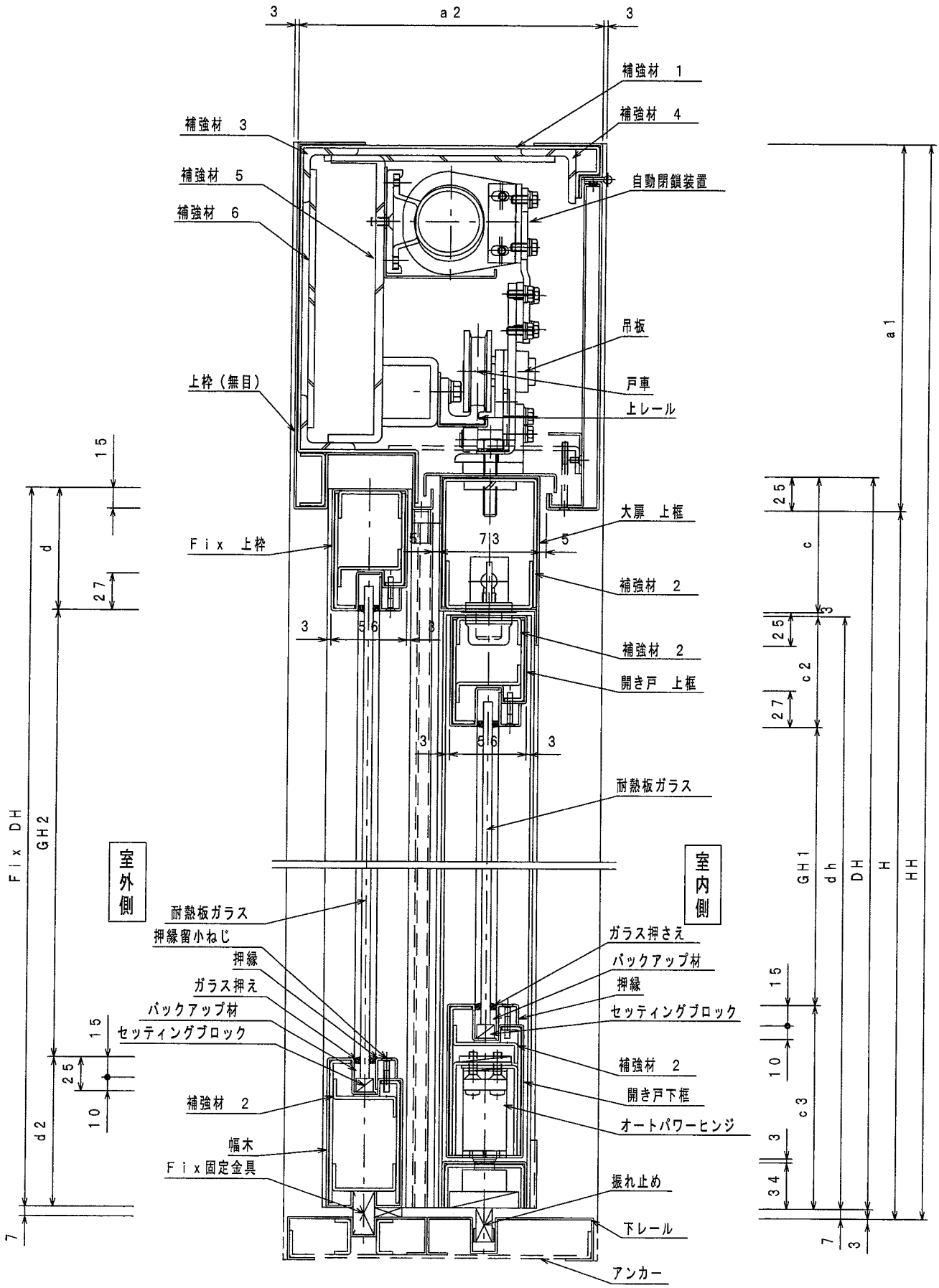
（単位　mm）



室外側立面図（開き戸機構付　手動引き戸）

図１０　構造説明図

（単位　mm）

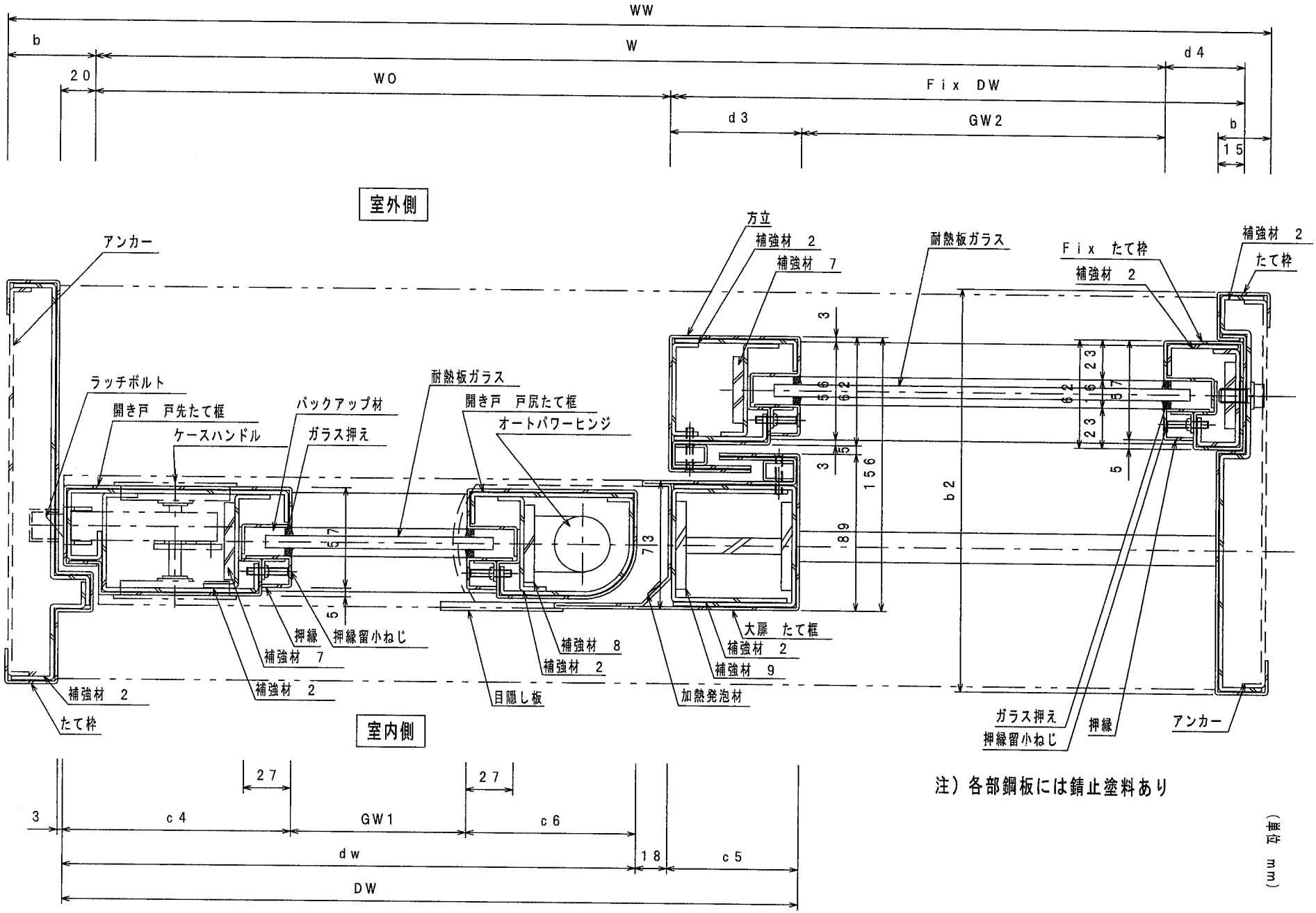


鉛直断面図（開き戸機構付　手動引き戸）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図１１　構造説明図

図１２　構造説明図

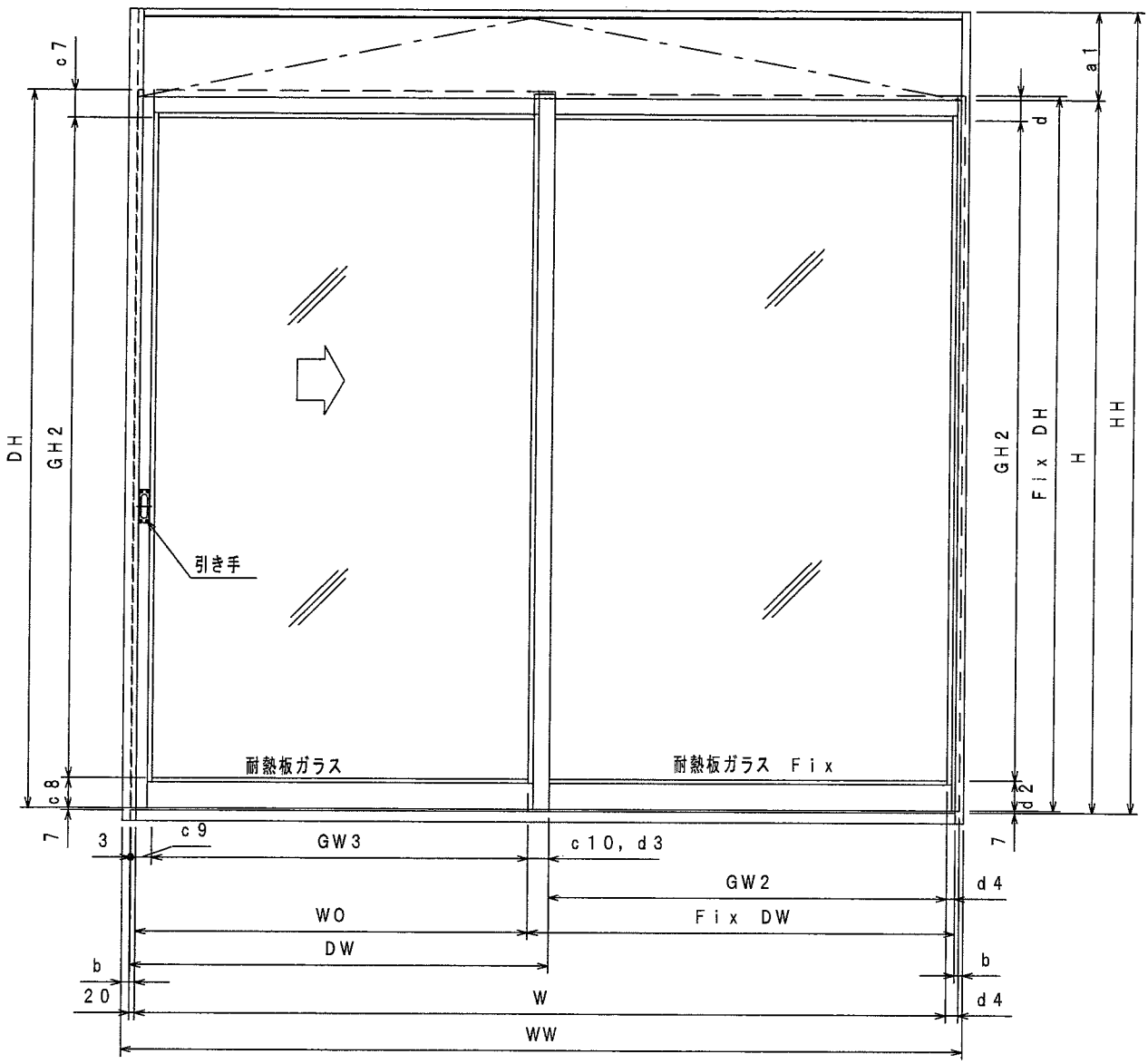


注）各部鋼板には錆止塗料あり

（単位　mm）

水平断面図（開き戸機構付　手動引き戸）

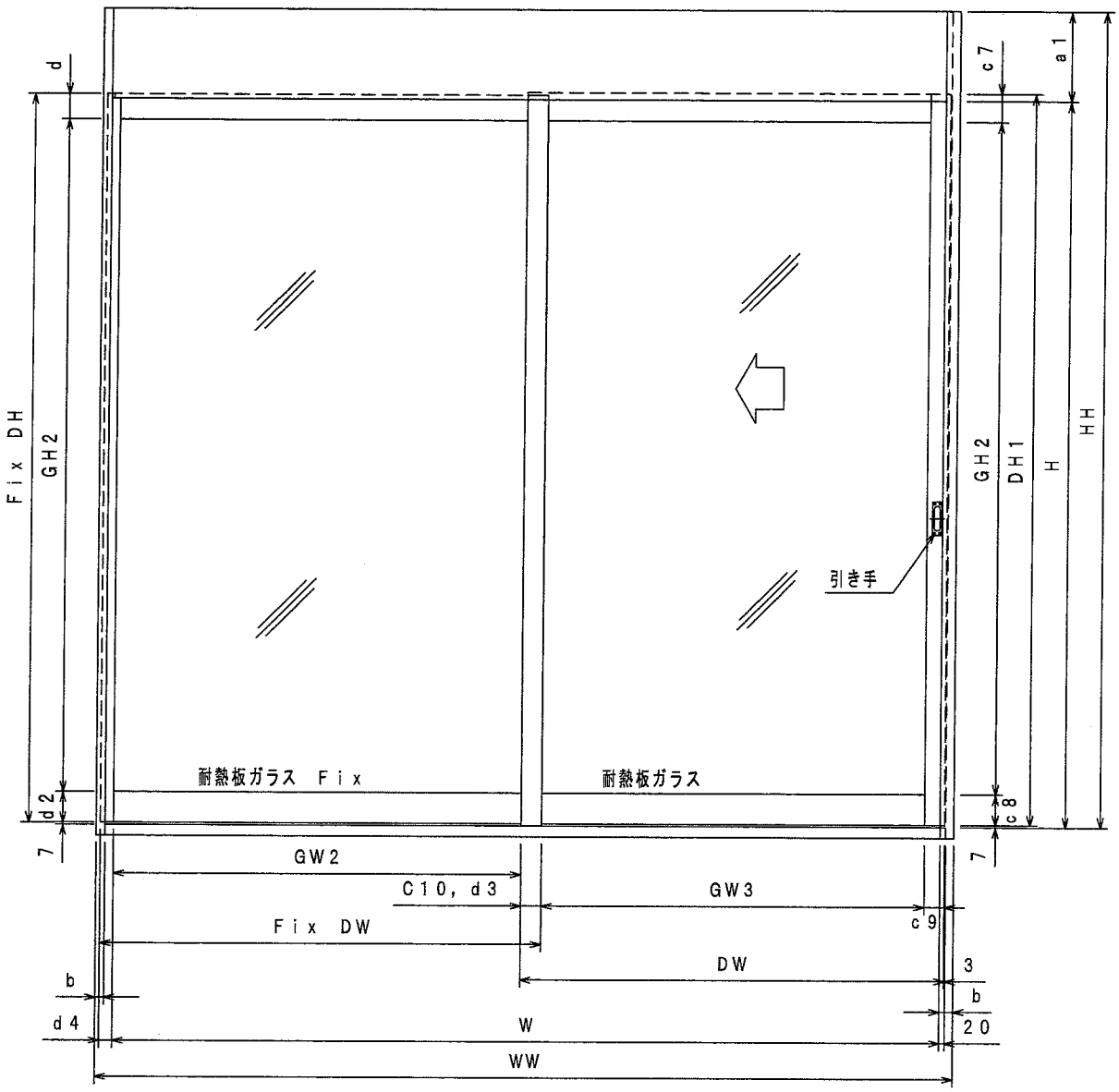
（単位　mm）



室内側立面図（手動引き戸）

図13　構造説明図

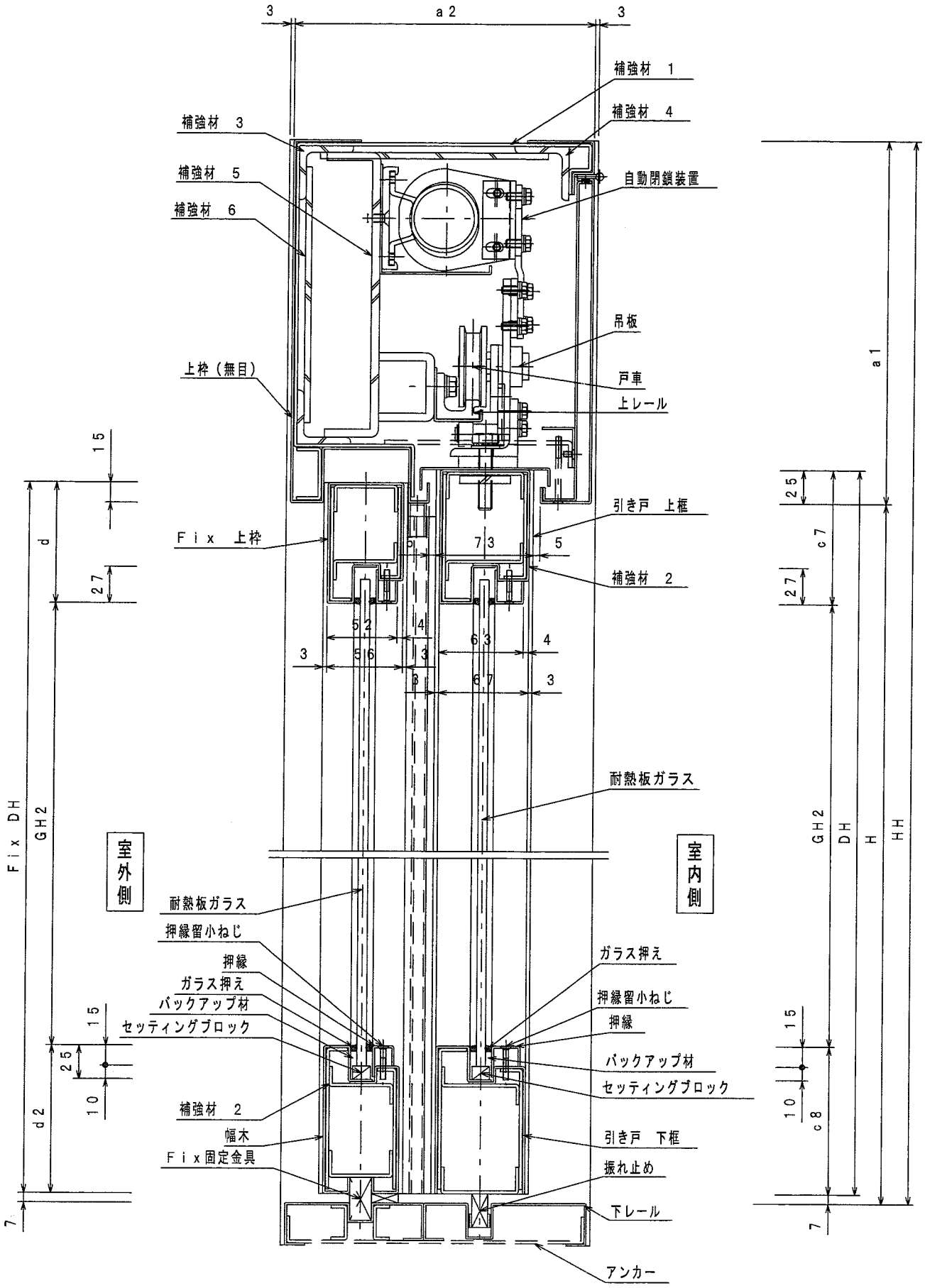
（単位　mm）



室外側立面図（手動引き戸）

図１４　構造説明図

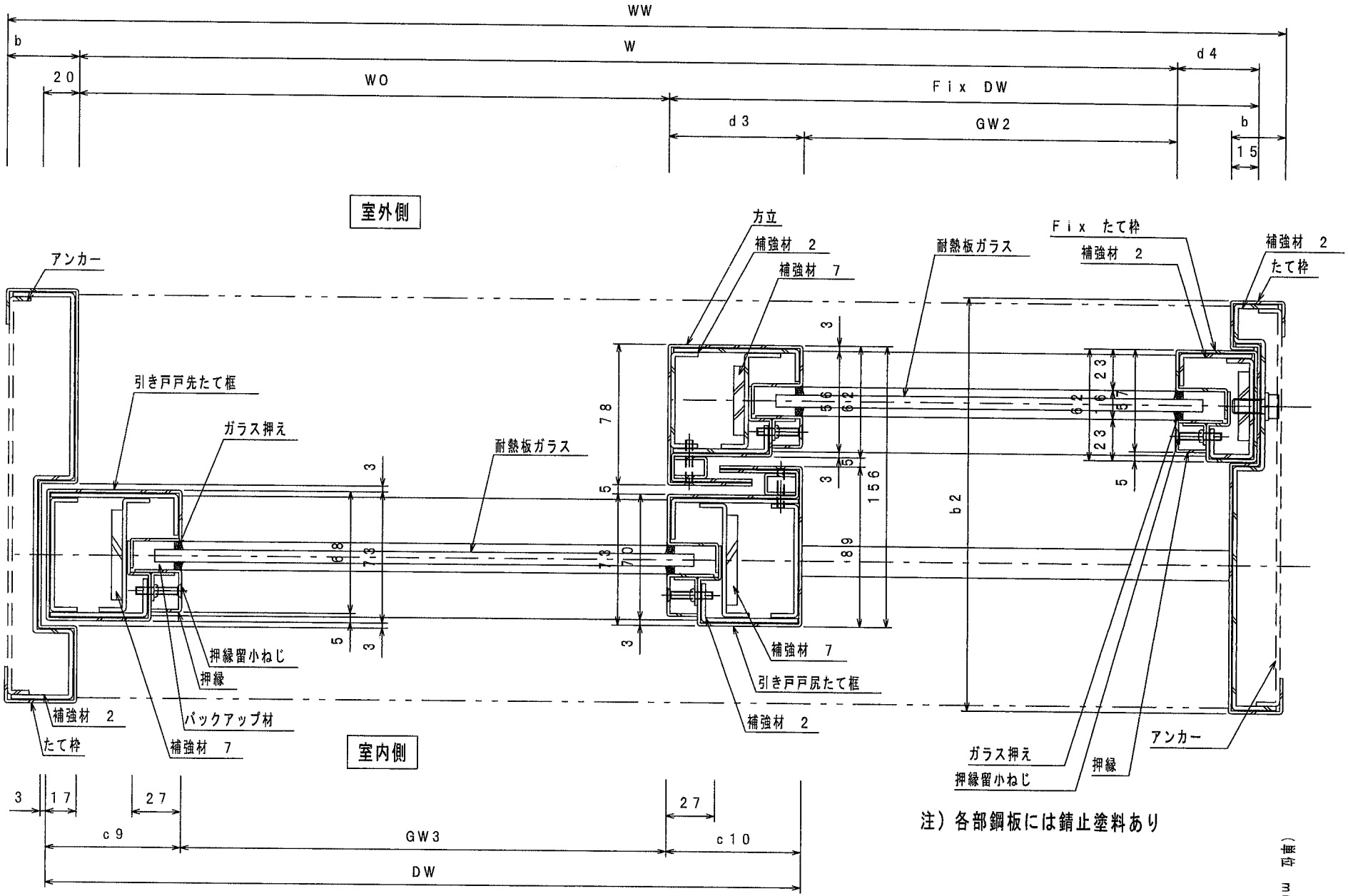
（単位　mm）



鉛直断面図（手動引き戸）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図１５　構造説明図



注）各部鋼板には錆止塗料あり

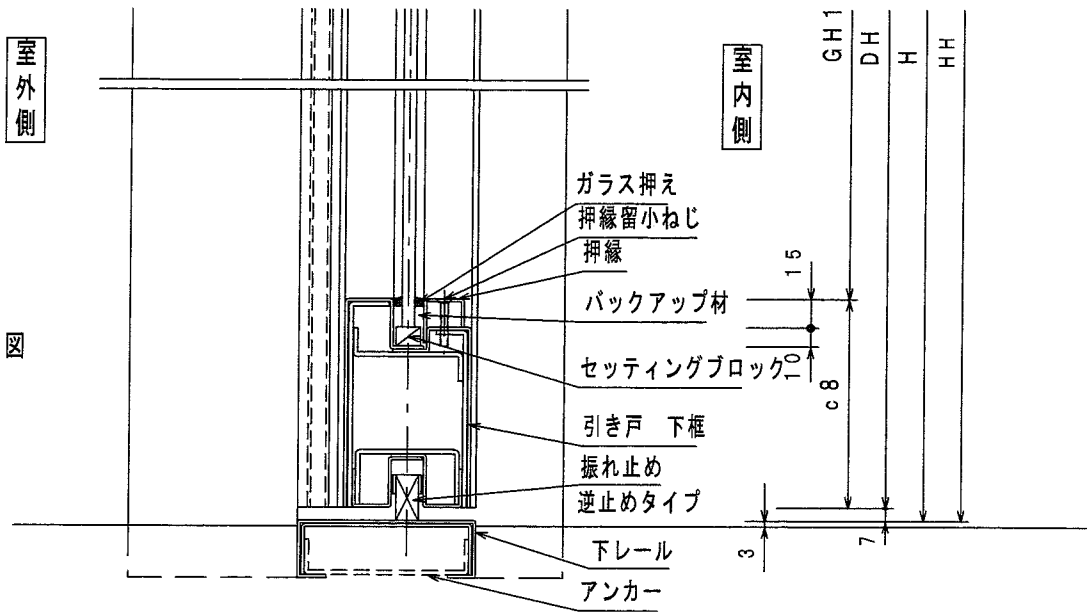
（単位 mm）

水平断面図（手動引き戸）

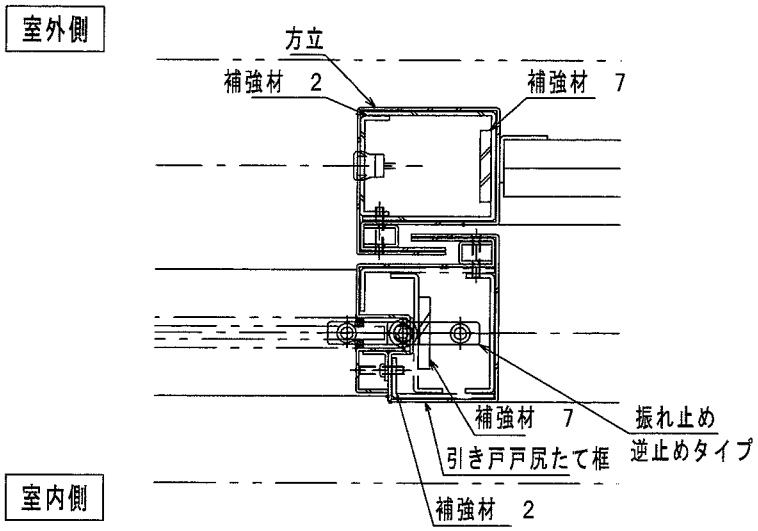
図16 構造説明図

（単位　mm）

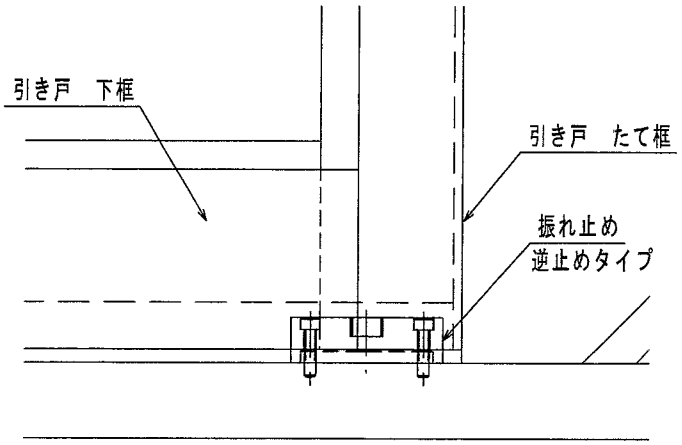
たて断面図　下部詳細図



よこ断面図　下部詳細図



姿図　下部詳細図



※固定は靴摺り又はＦＬ直取付け。

振れ止め逆取付けタイプ　説明図

図１７　構造説明図

6.施工条件：

施工図を図１８～図５２に示す。

施工は以下の手順で行う。

１．組立て

建具のうち、開き戸、引き戸、大扉及びＦｉｘ枠を構成する上框、下框、たて框等の框を工場で加工し、組立てたものを現場に搬入する。

２．枠取付

(1) 取付準備

取付場所を清掃し、建具を配置するスペースを確保し、各階基準墨、取付開口部の大きさ等の確認を行う。

(2) 取付

①建具の配置

サッシ芯墨、返り芯墨及び陸墨等の基本墨に基づき、所定の位置に建具を配し、枠の水平、倒れ、対角寸法をチェックする。

②建具の組立

・片袖ガラス納まりの場合

上枠（無目）、左右のたて枠及び下レールを組立て後、Ｆｉｘ枠を溝にはめ込み、たて枠と固定する。

・片袖壁納まり（モルタル又はせっこうボード等）の場合

上枠（無目）、左右（戸当り側だけの場合もある）のたて枠、方立及び下レールを組立てる。

③建具の固定

建具のアンカーを差筋又は取付用アンカーに、350mm以下の間隔で溶接する。

(3) 周壁部の処理

①湿式工法の場合、枠と周辺構造材との間にセメントモルタルをすき間なく充てんする。

②乾式工法の場合、せっこうボード等で被覆する。

(4) 仕上げ塗装

ガラス施工前に仕上塗装を行う。

３．ガラスの取付

(1) 取付準備

・ガラス開口部及びガラス溝の寸法を確認後、建具押縁を外した後、ガラスの溝を清掃する。

・周辺部にガラスを破損するおそれのあるねじ及び突起物を除去する。

(2) ガラスの取付

所定の位置にセッティングブロックを据え付け、ガラスに反り、ねじれを生じさせないようにはめ込む。なお、取付の際、ガラスエッジ及び面には傷を付けないように注意する。

(3) ガラスの調整

所定のクリアランス及びかかり代となるように、ガラスを微動させて調整し、その後、押縁を取付ける。

(4) シーリング施工

ガラスの取合い部分にバックアップ材を入れてシーリング材で仕上げる。

(5) 養生

ガラスを施工後、工事が完了するまで、注意喚起の貼り紙をし、必要に応じて防護材（ポリウレタン加工紙、養生フィルム等）でガラス面を養生する。

４．自動ドアの取付

自動ドアは、駆動装置、制御装置、懸架装置（上レール、吊板及び戸車）、検出装置（無目付センサ、タッチスイッチ及び補助光電スイッチ）、自動閉鎖装置及び建具で構成されている。

(1) 取付準備

自動ドアの種類、寸法と自動ドア仕様、建具寸法及び精度、電源配線及び防災センターからの閉鎖信号線等を確認する。

(2) 引き戸の取付

①上レールを固定し、戸車を大扉又は引き戸ドアに取付後、上レールに吊り込む。

②開き戸がある場合、大扉を吊り込み後、開き戸を取付け、ラッチが確実に掛かることを確認する。

(3) 駆動装置を取付る場合

指定位置を決め、上枠（無目）に駆動装置、制御装置を取付ける。

(4) 伝達機構と引き戸の接続

駆動力をチェーンにより引き戸に伝えるため、張力を調整し、ねじで締付ける。

(5) 自動閉鎖装置の取付

指定位置を決め、上枠（無目）に自動閉鎖装置を取付け、ねじで固定する。

(6) 検出装置を取付る場合

無目付センサ、タッチスイッチ及び補助光電スイッチは、指示された場所に取付ける。

5．手動ドア（駆動装置なし）の場合

手動ドア（駆動装置なし）の場合、自動ドアの構成のうち、制御装置、検出装置は取付けない。

(1)取付準備

建具寸法及び精度、電源配線及び防災センターからの閉鎖信号線を確認する。

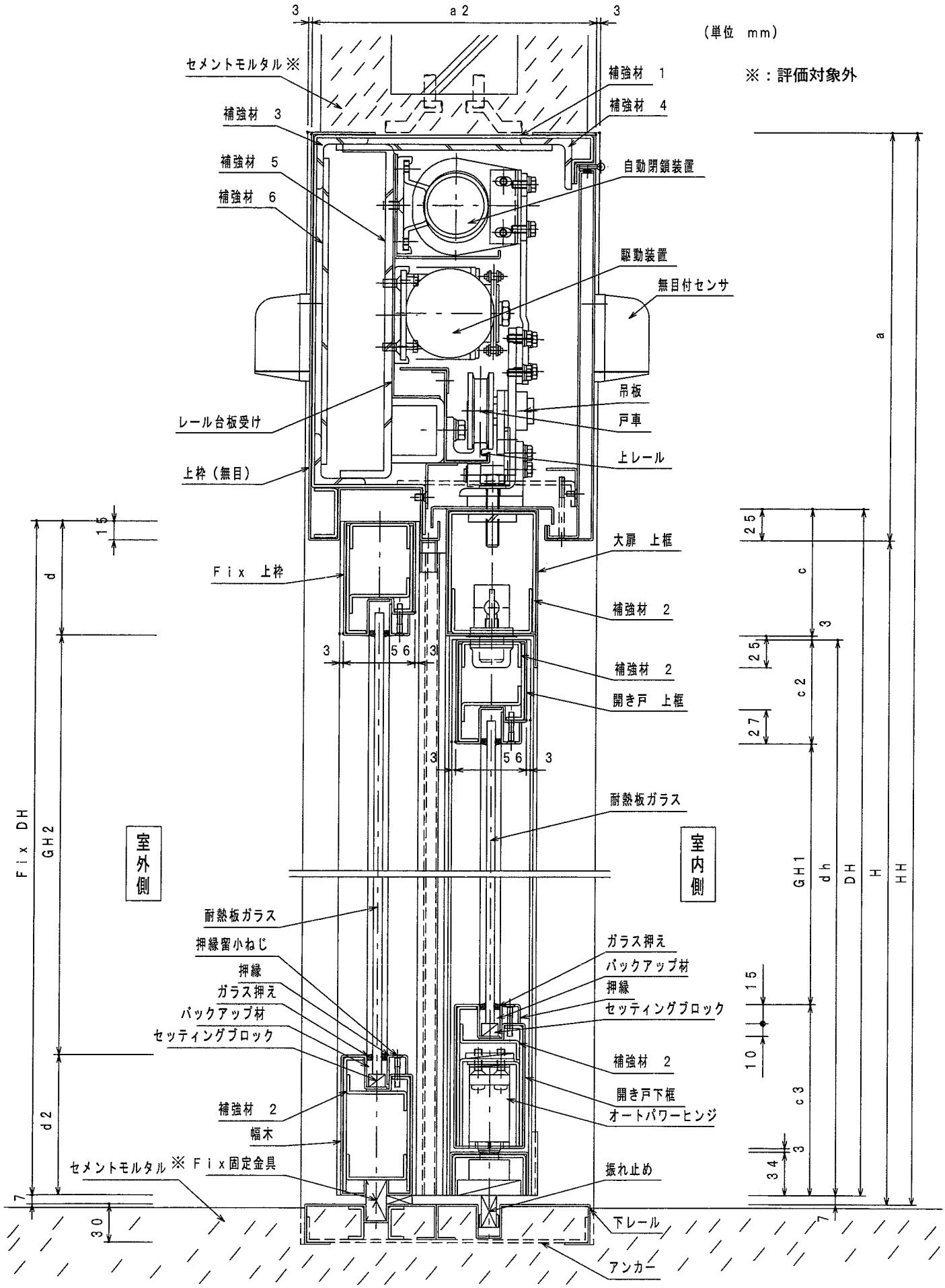
(2)引き戸の取付

①上レールを固定し、戸車を大扉又は引き戸ドアに取付後、上レールに吊り込む。

②開き戸がある場合、大扉を吊り込み後、開き戸を取付け、ラッチが確実に掛かることを確認する。

(3)自閉装置の取付

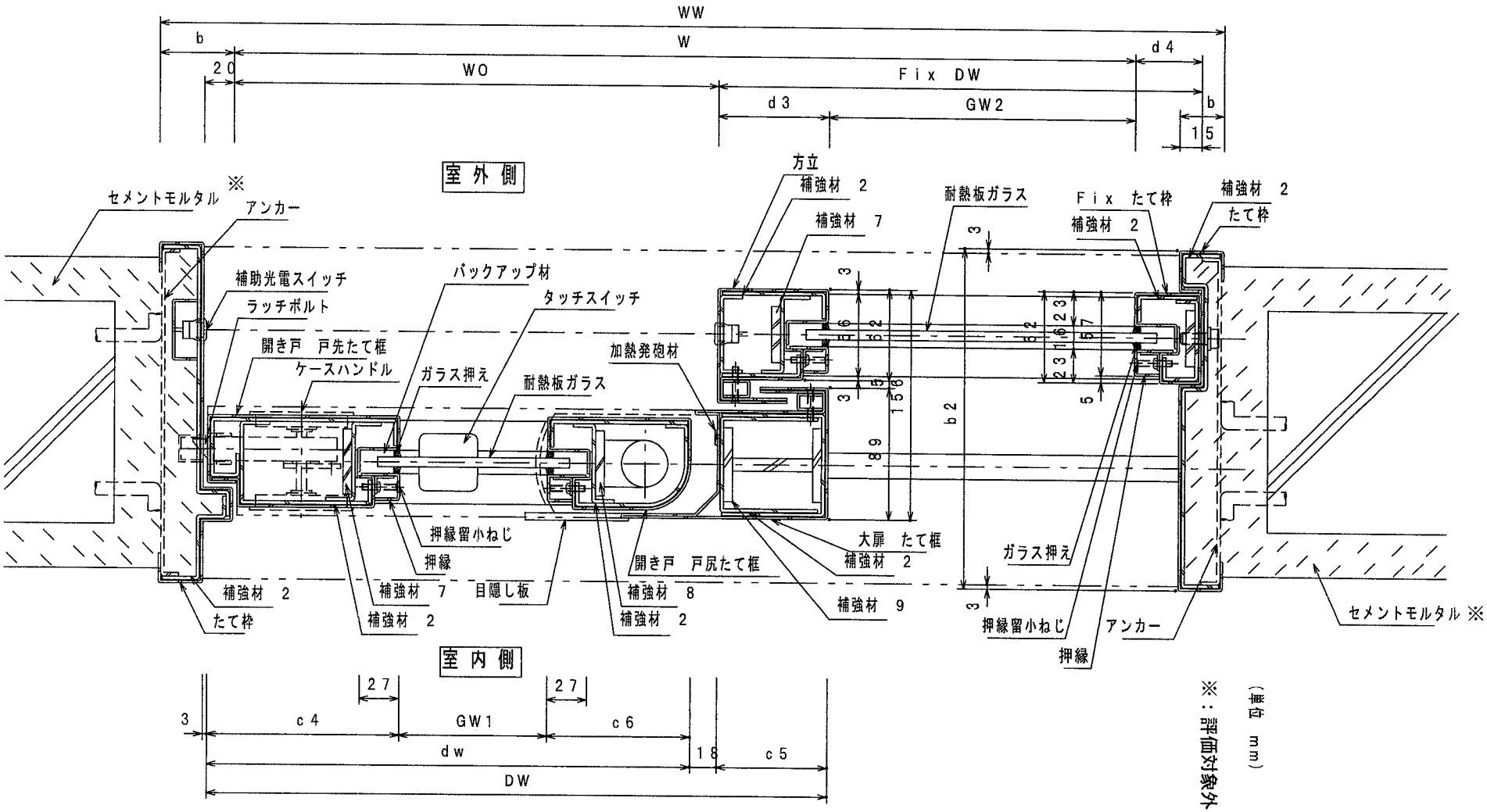
取付け位置を決め、上枠（無目）に自閉装置を取付、ねじで固定する。



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構付、片袖ガラス施工仕様）

図18 施工図

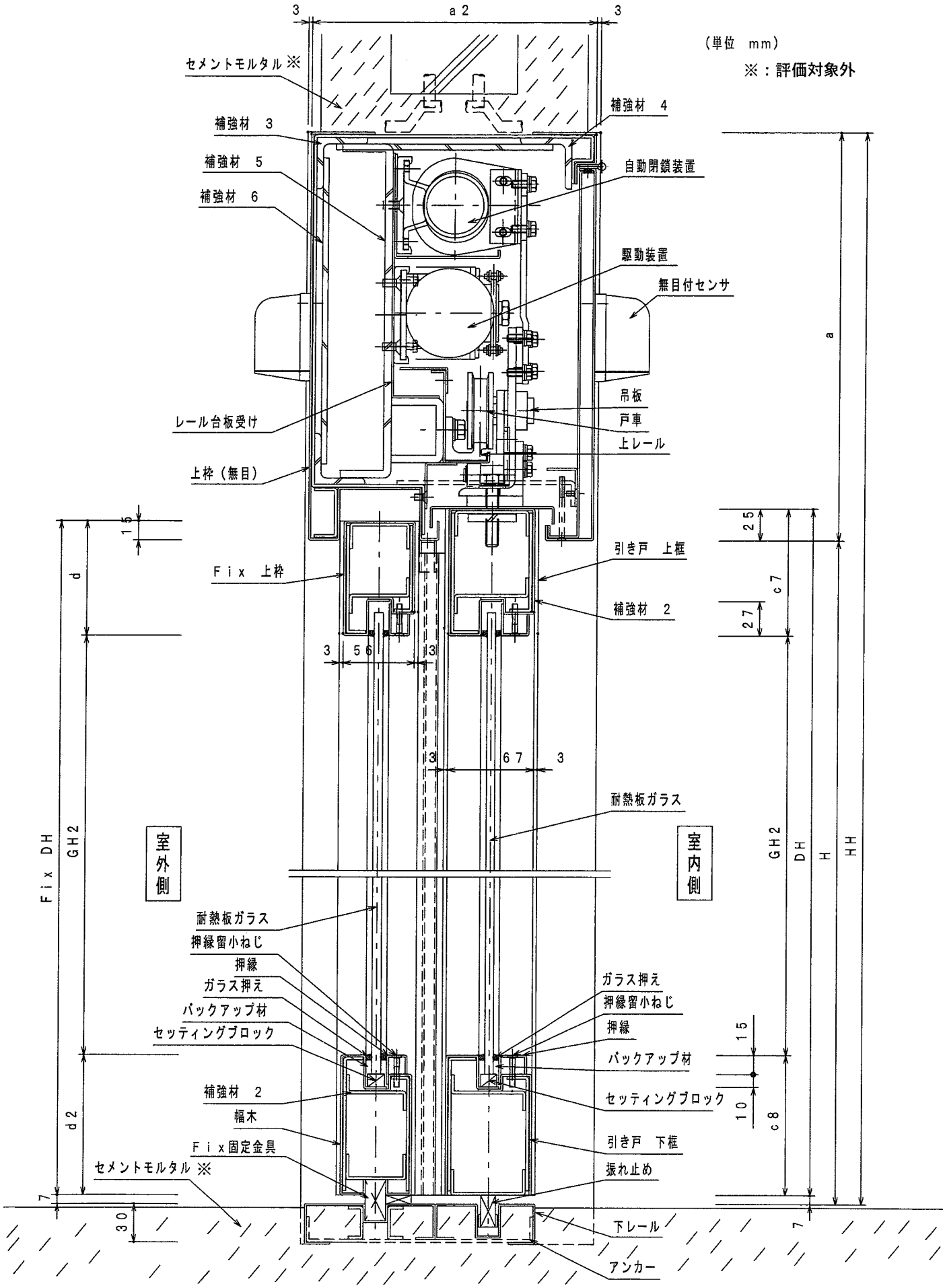
図19 施工図



水平断面図（湿式工法、開き戸機構付、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

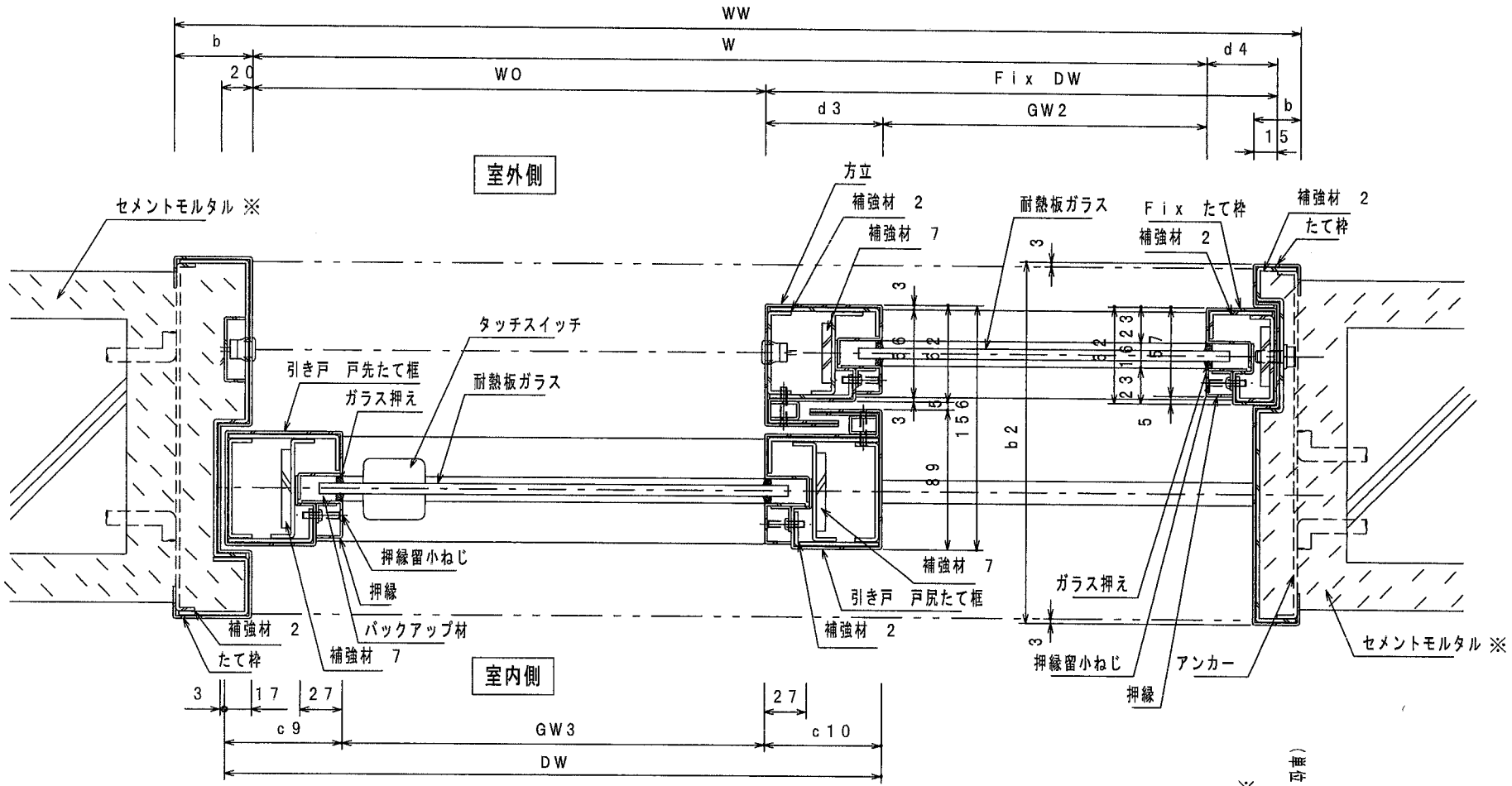
※：評価対象外



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構無し、片袖ガラス施工仕様）

図２０　施工図

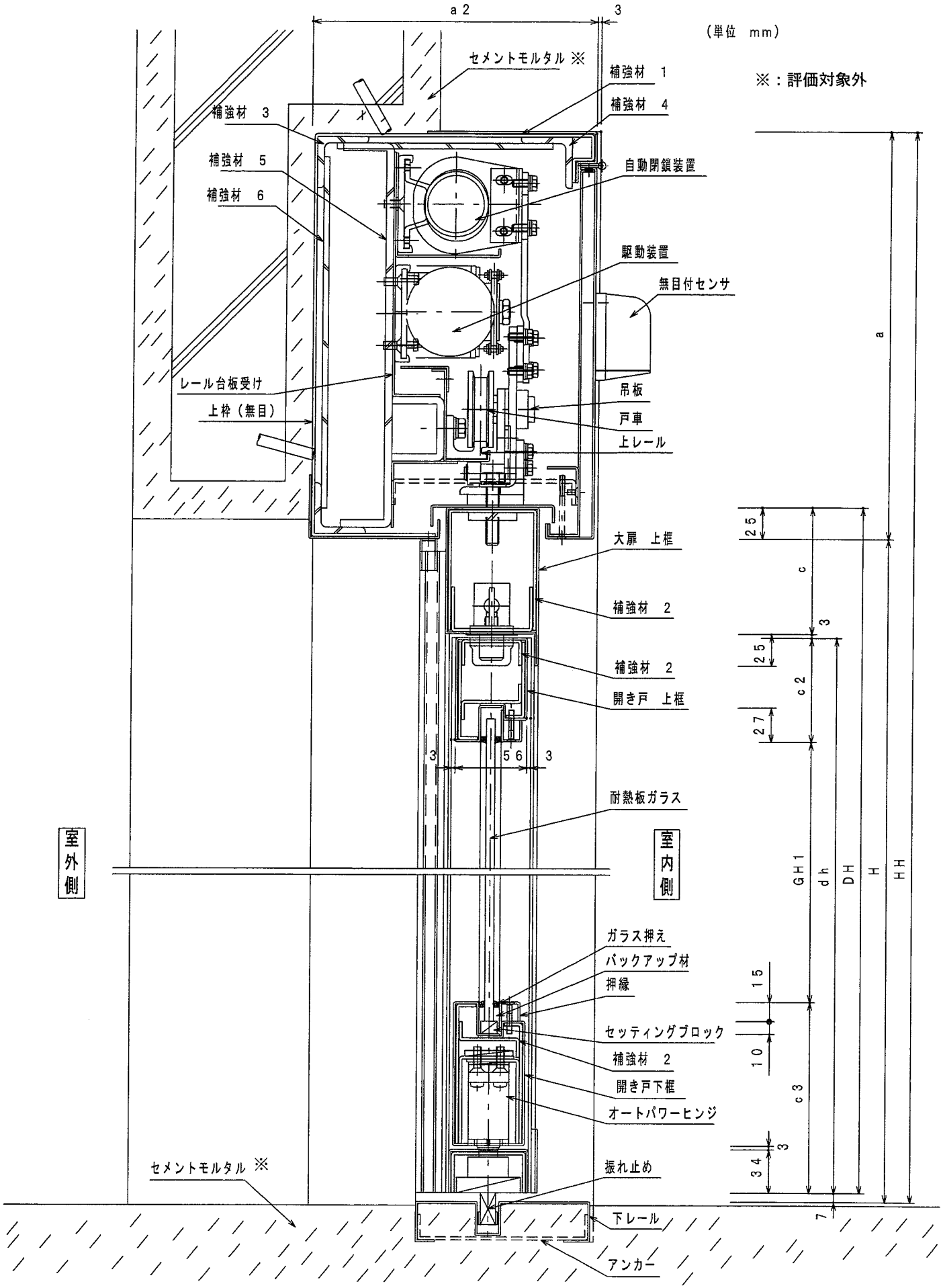
図21 施工図



水平断面図（湿式工法、開き戸機構無し、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

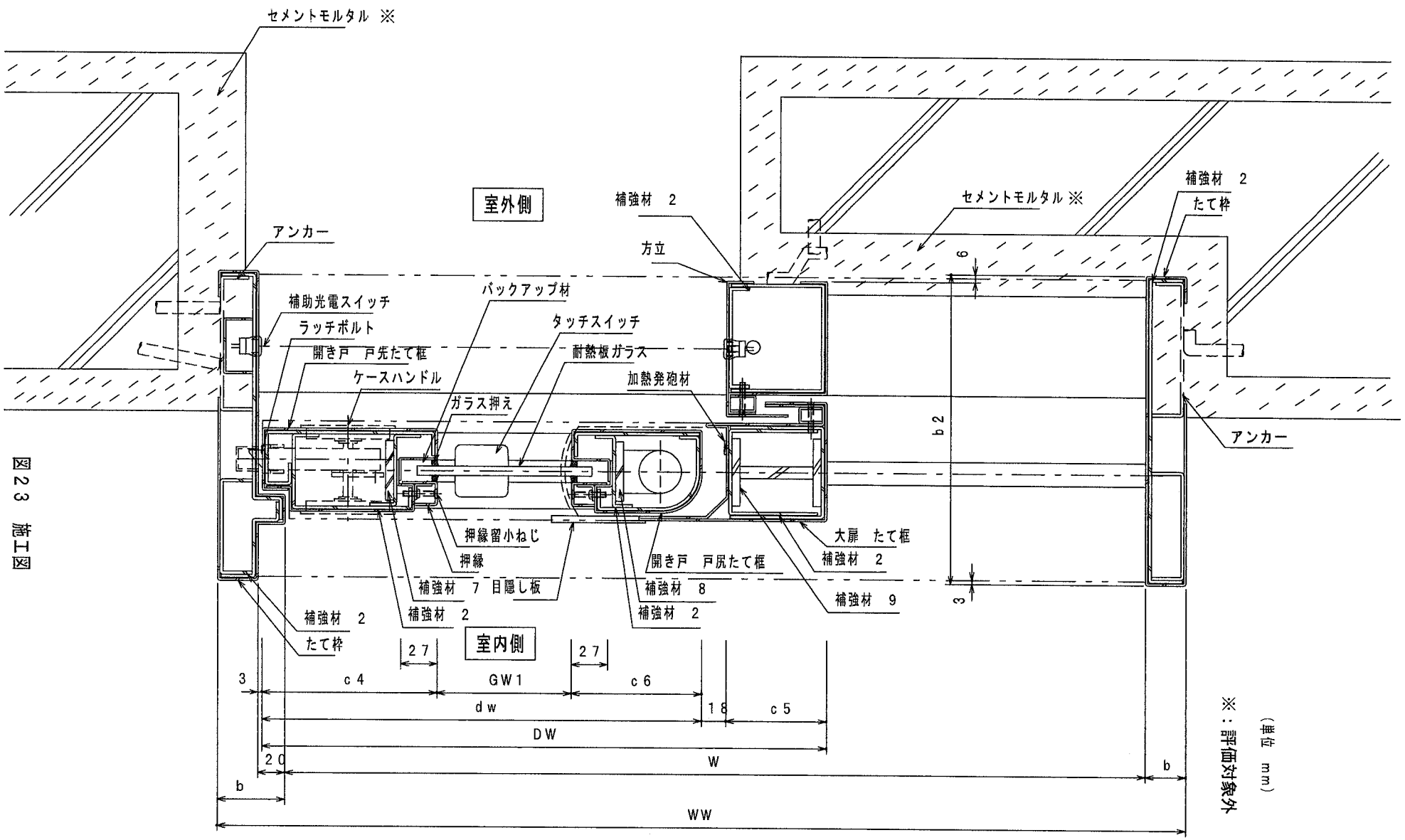
※：評価対象外



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構付、片袖壁施工仕様）

図２２　施工図

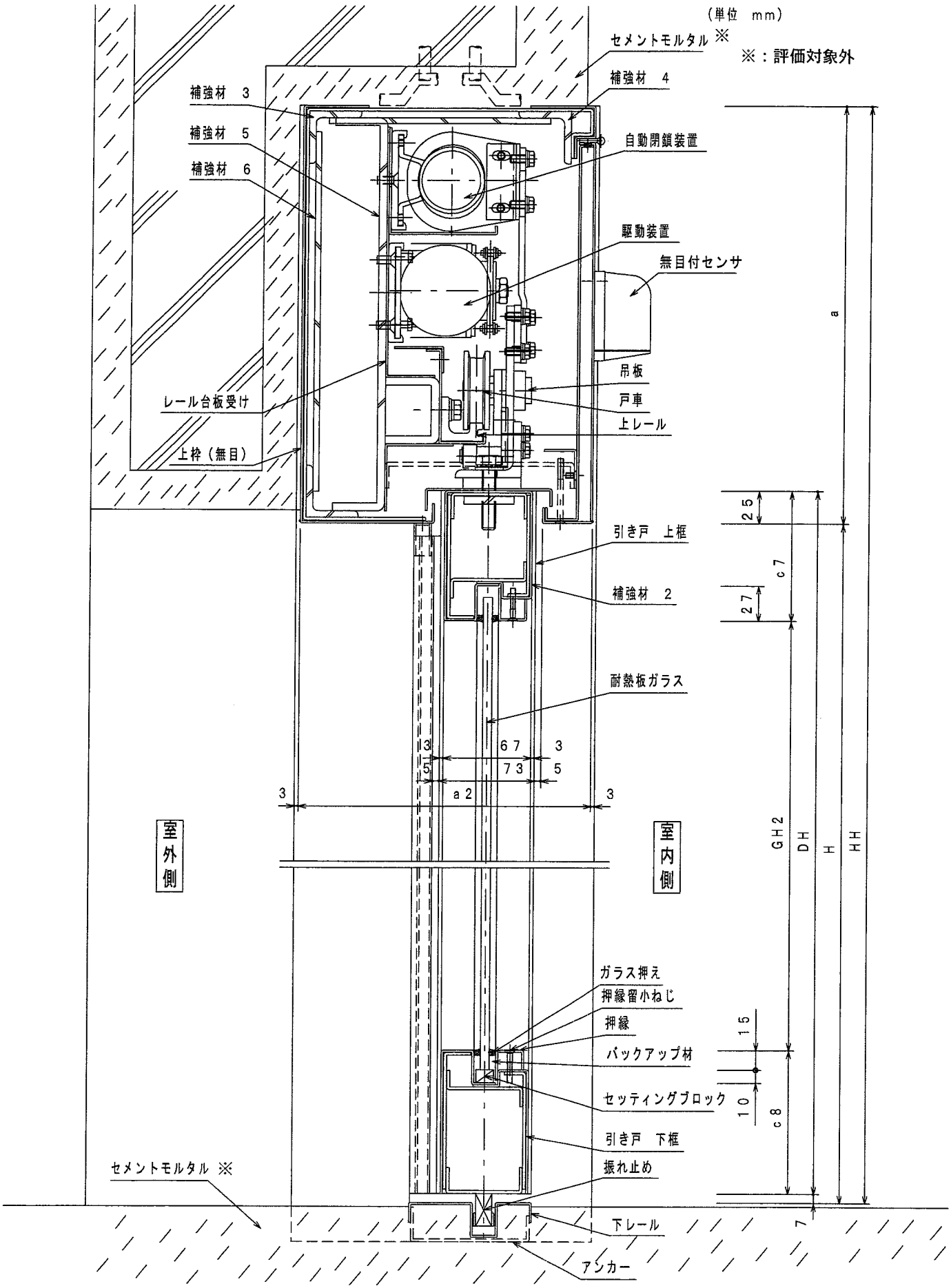
図２３　施工図



（単位　mm）

※：評価対象外

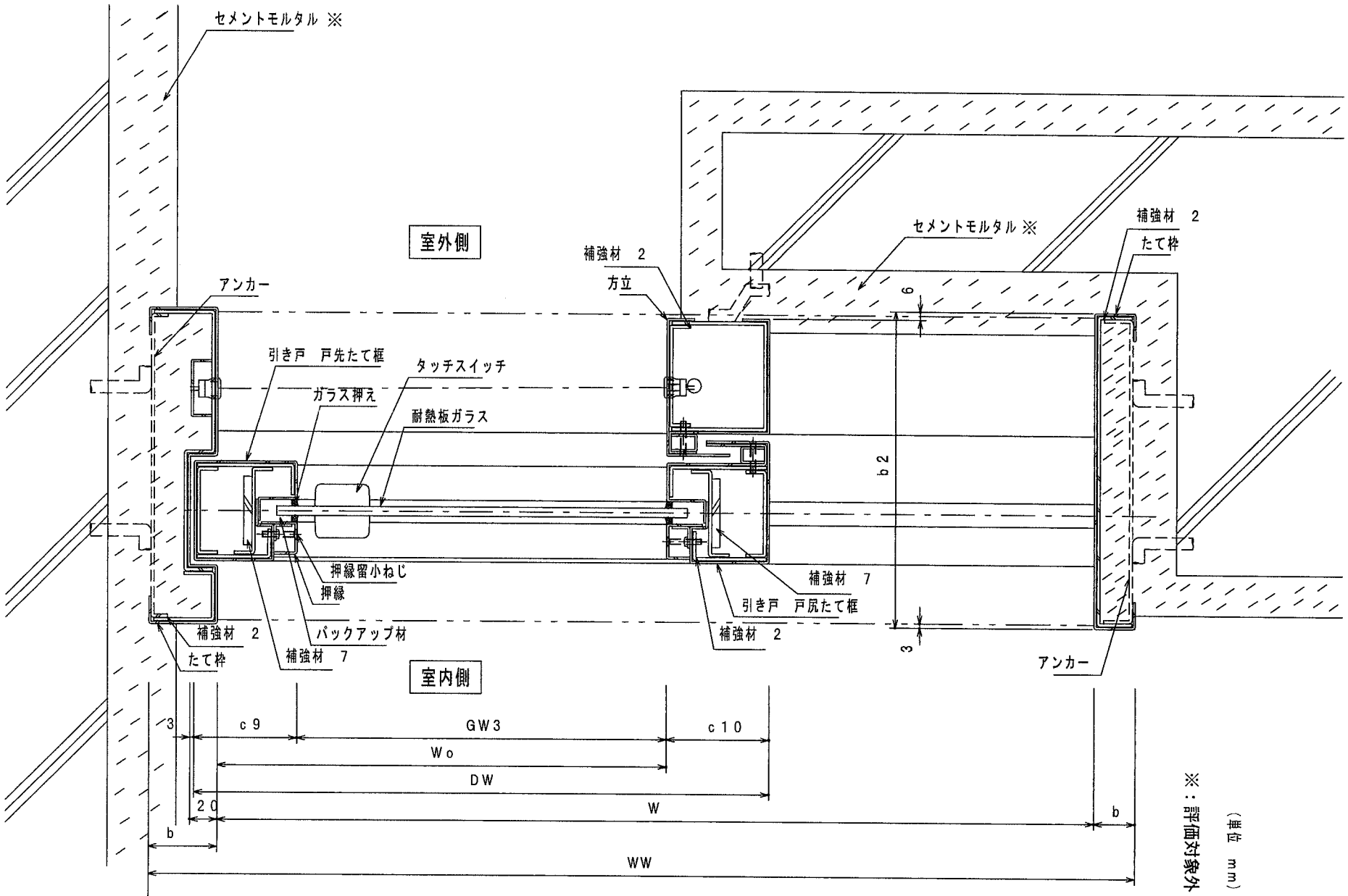
水平断面図（湿式工法、開き戸機構付、片袖壁施工仕様）



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構無し、片袖壁施工仕様）

図２４　施工図

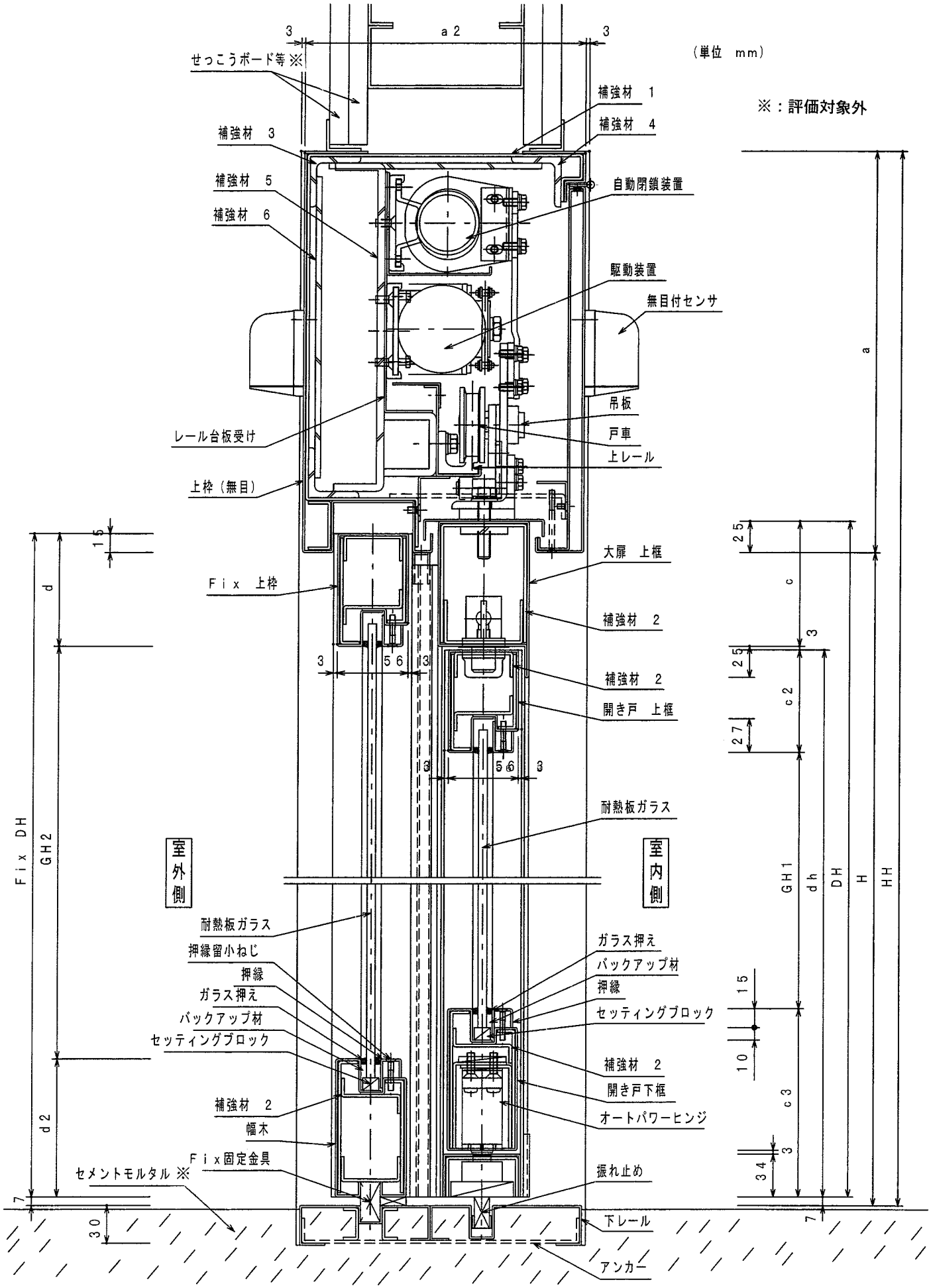
図25 施工図



水平断面図（湿式工法、開き戸機構無し、片袖壁施工仕様）

（単位 mm）

※：評価対象外

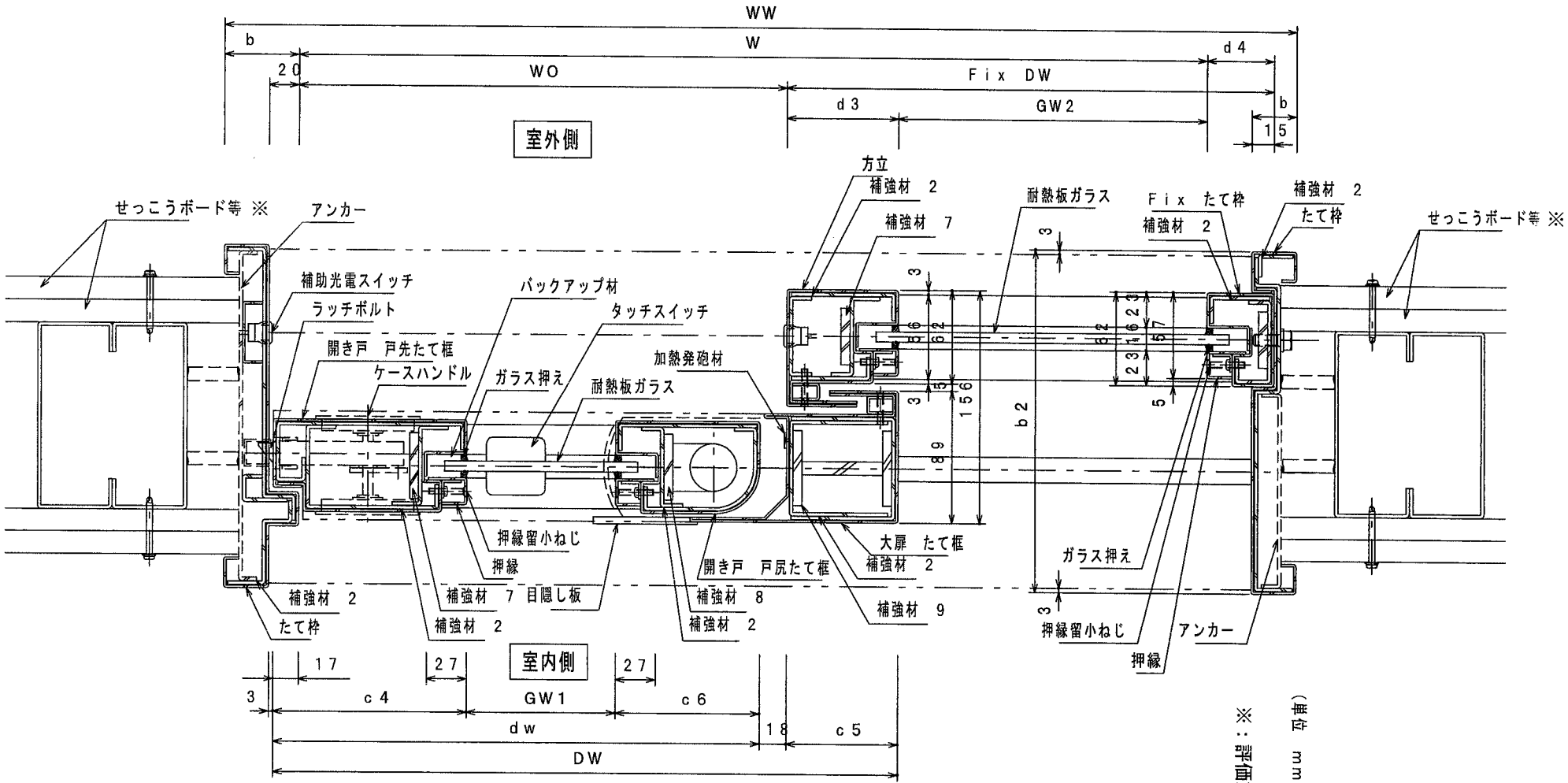


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構付、片袖ガラス施工仕様）

図２６　施工図

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

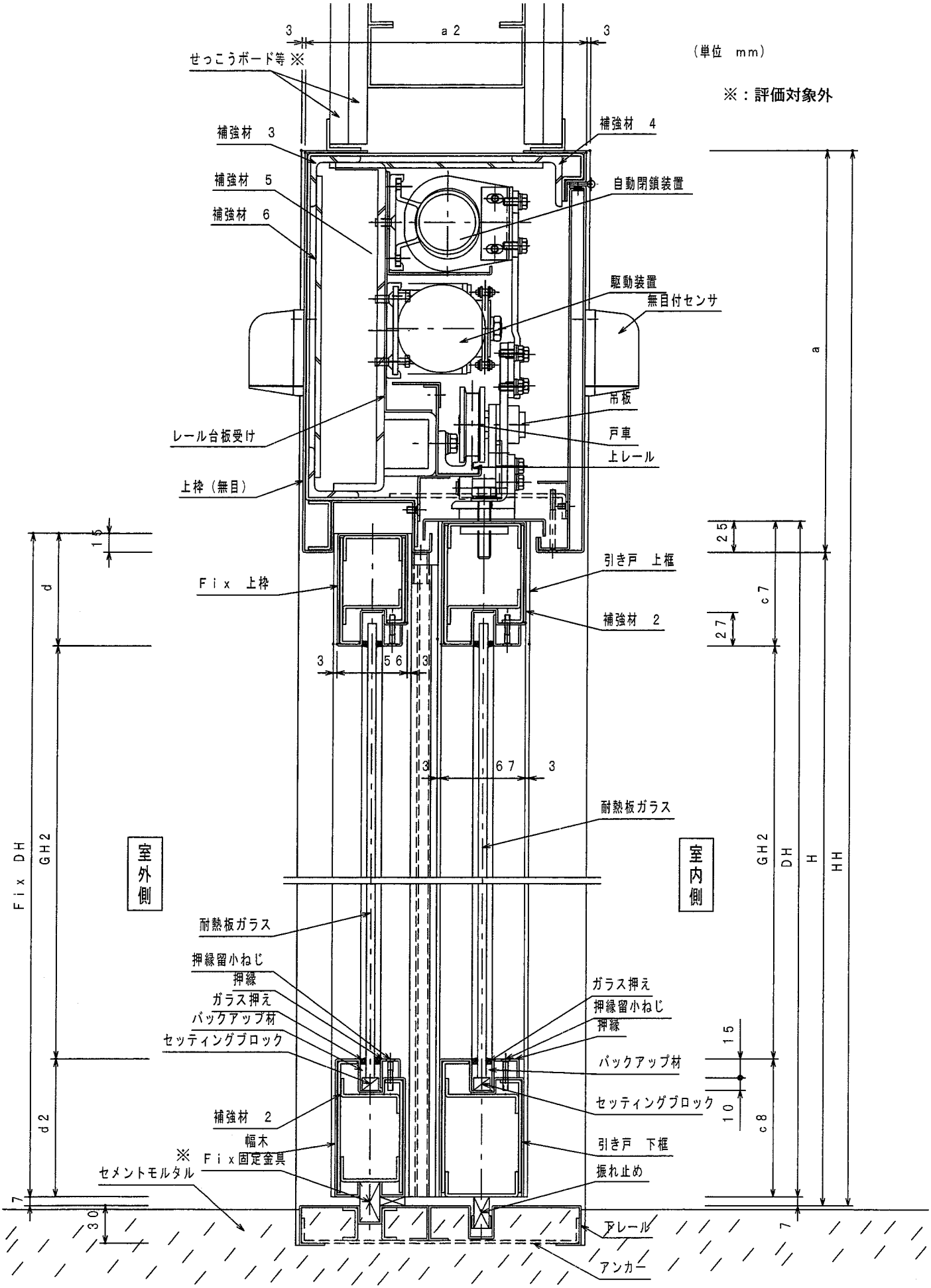
図27 施工図



水平断面図（乾式工法、開き戸機構付、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

※：評価対象外

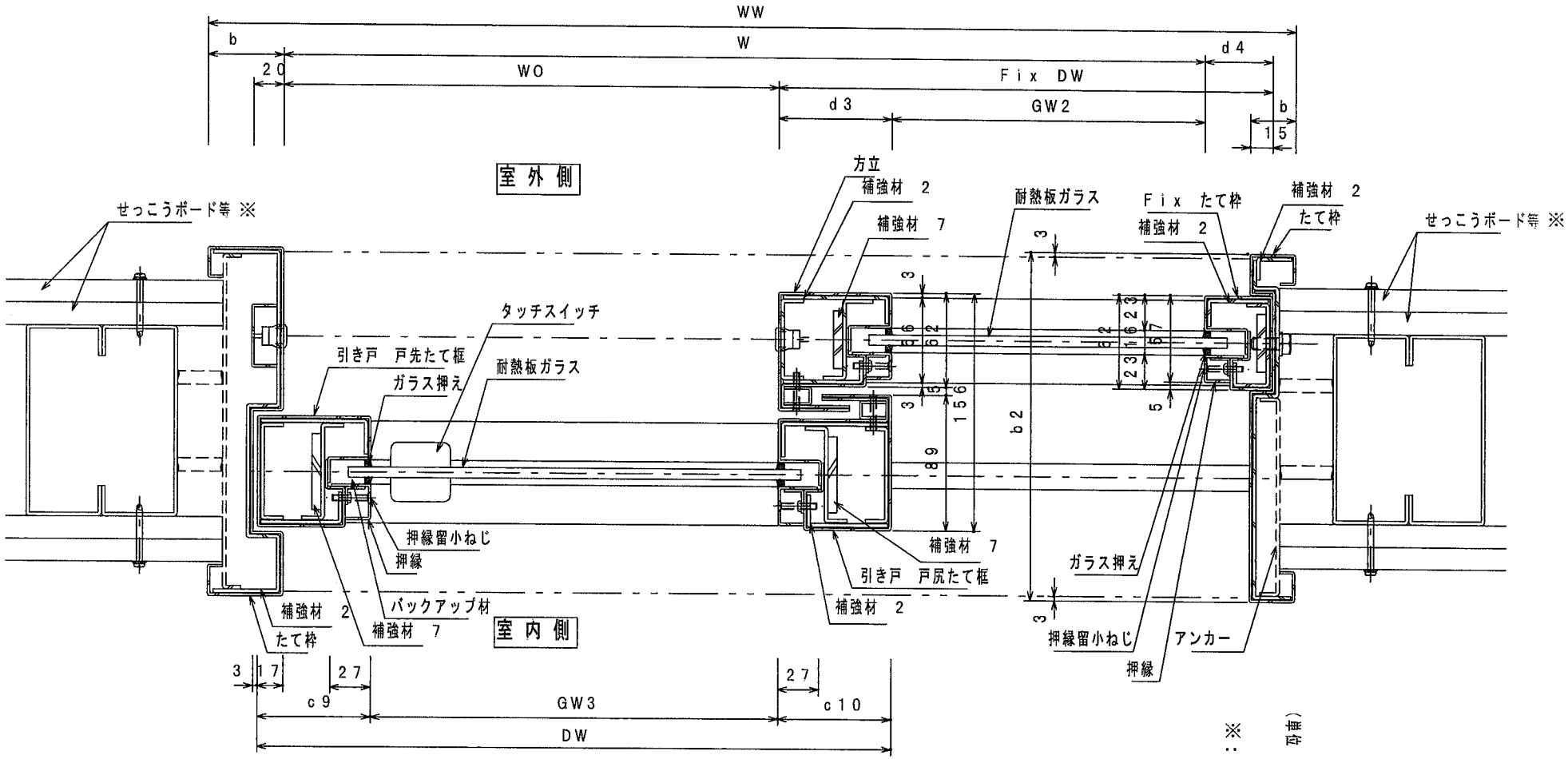


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構無し、片袖ガラス施工仕様）

図２８　施工図

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

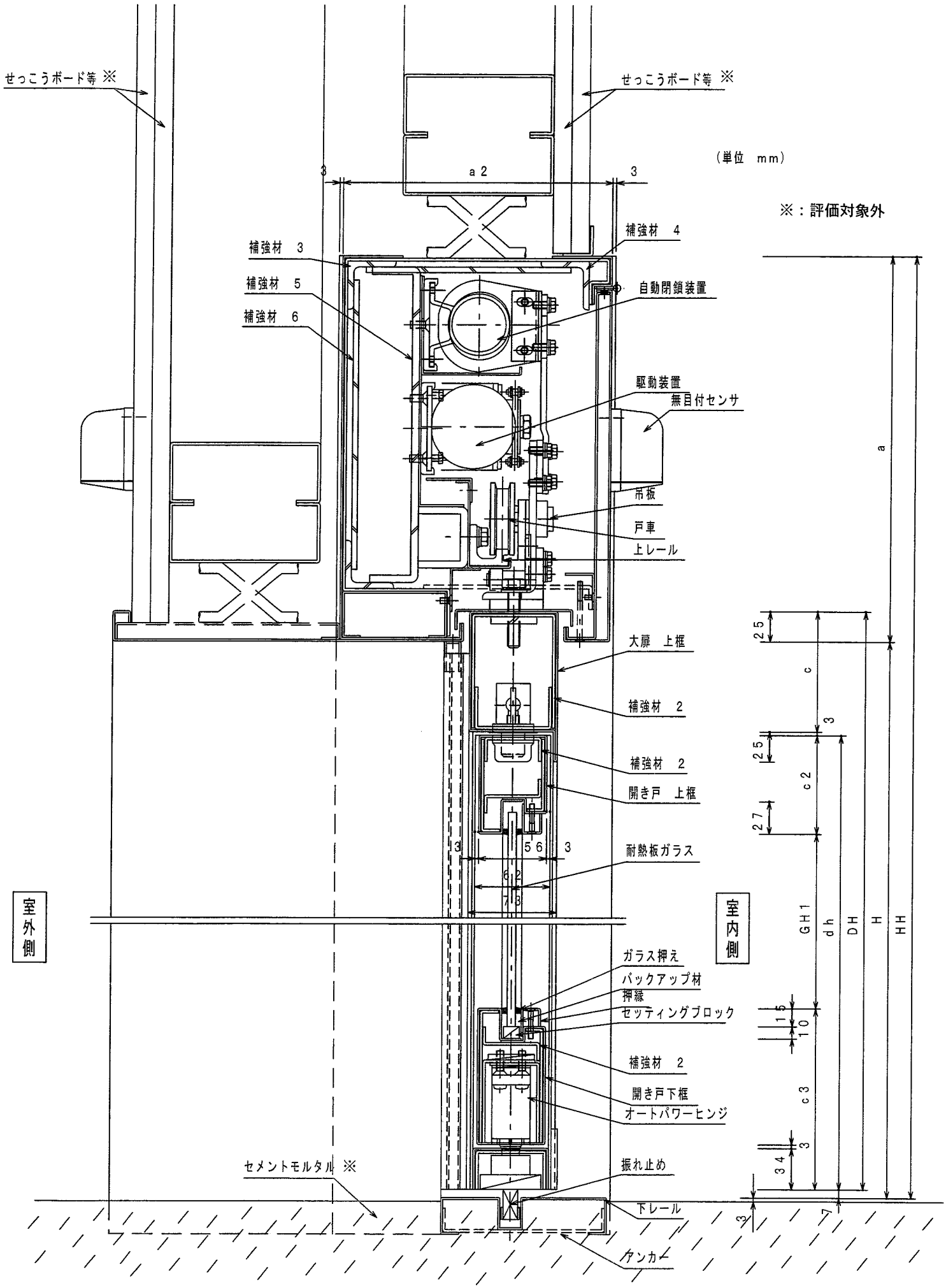
図２９　施工図



水平断面図（乾式工法、開き戸機構無し、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

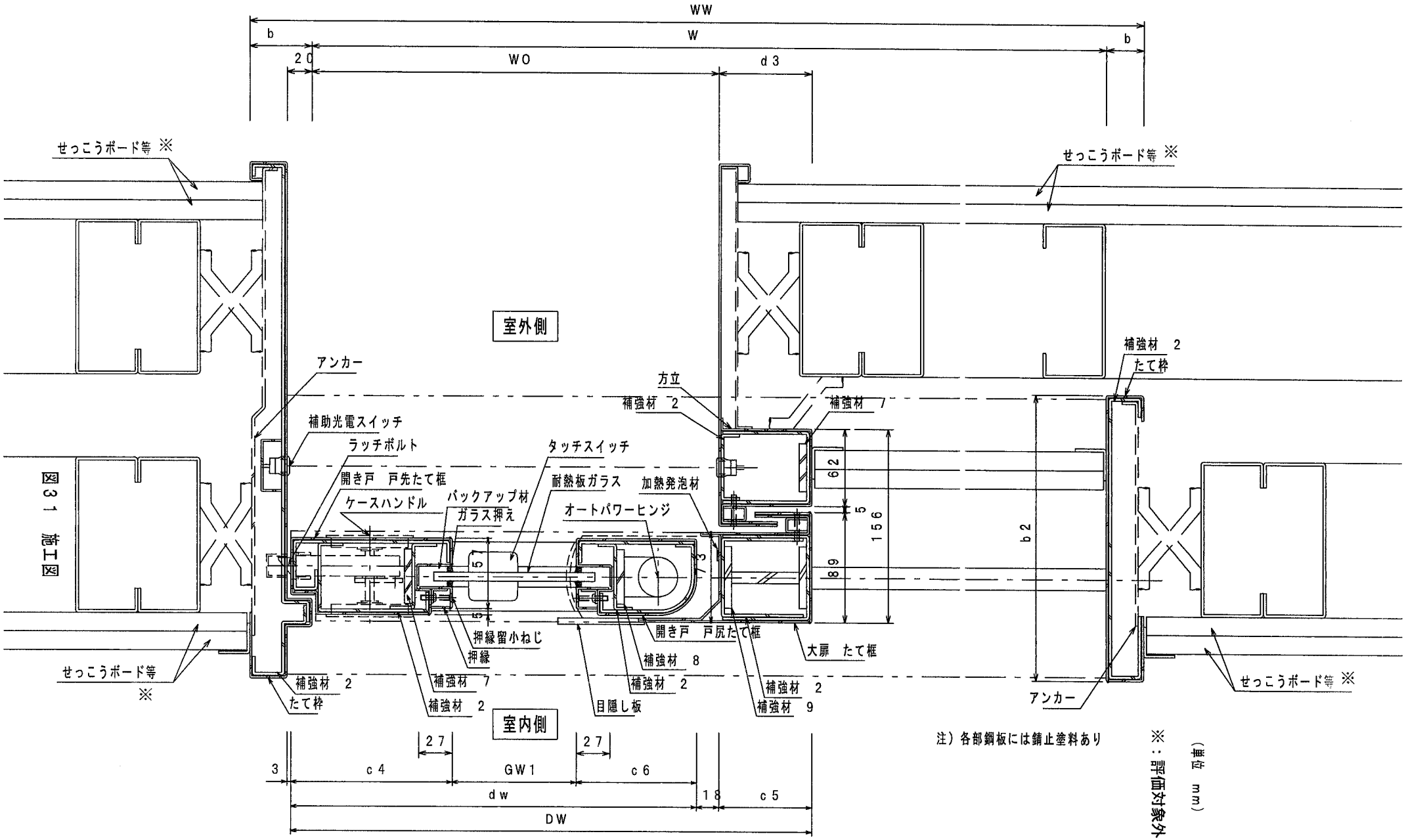
※：評価対象外



鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構付、片袖ボード施工仕様）　注）各部鋼板には錆止塗料あり

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

図３０　施工図



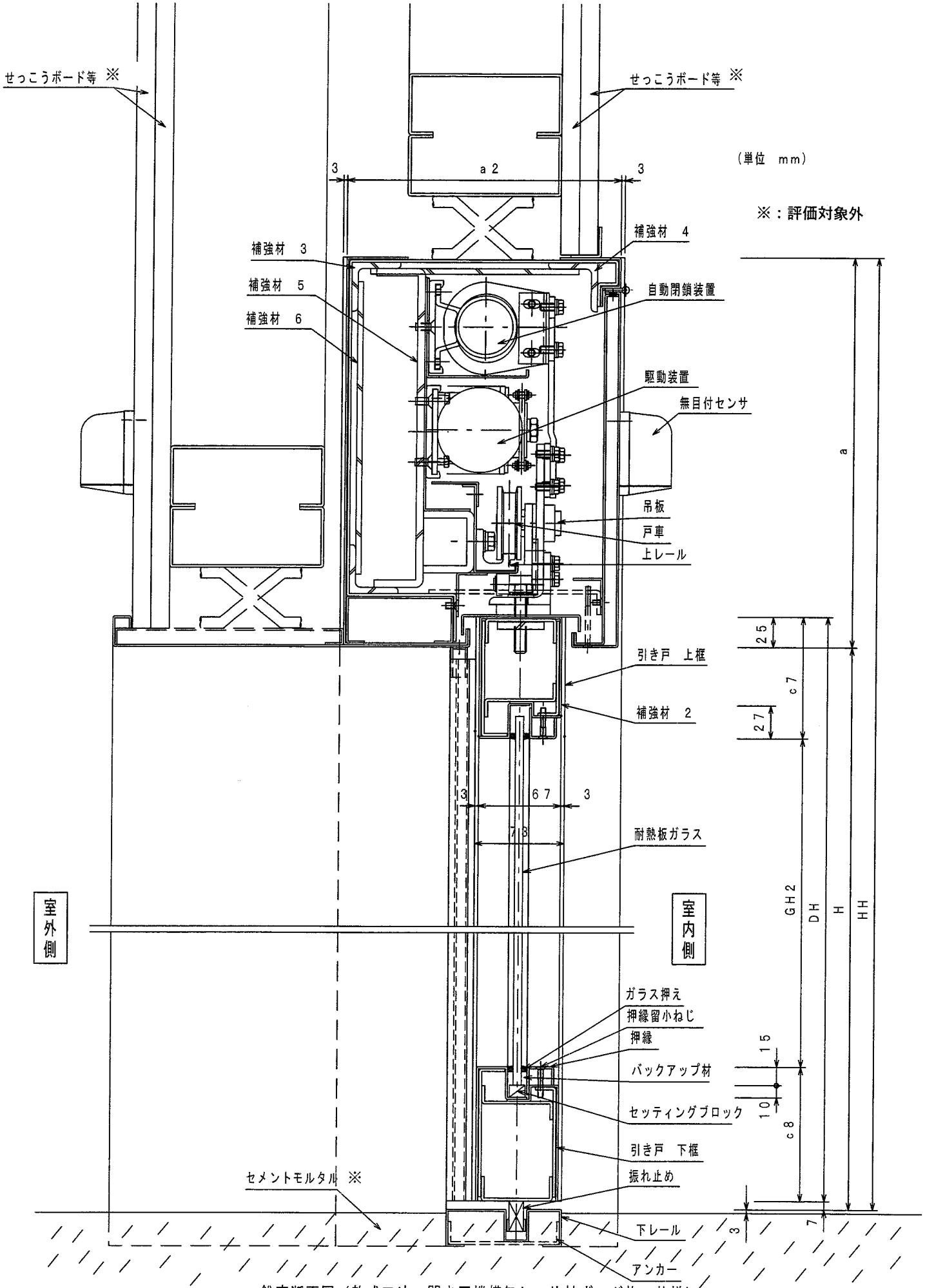
注）各部鋼板には錆止塗料あり

※：評価対象外

（単位 mm）

図31 施工図

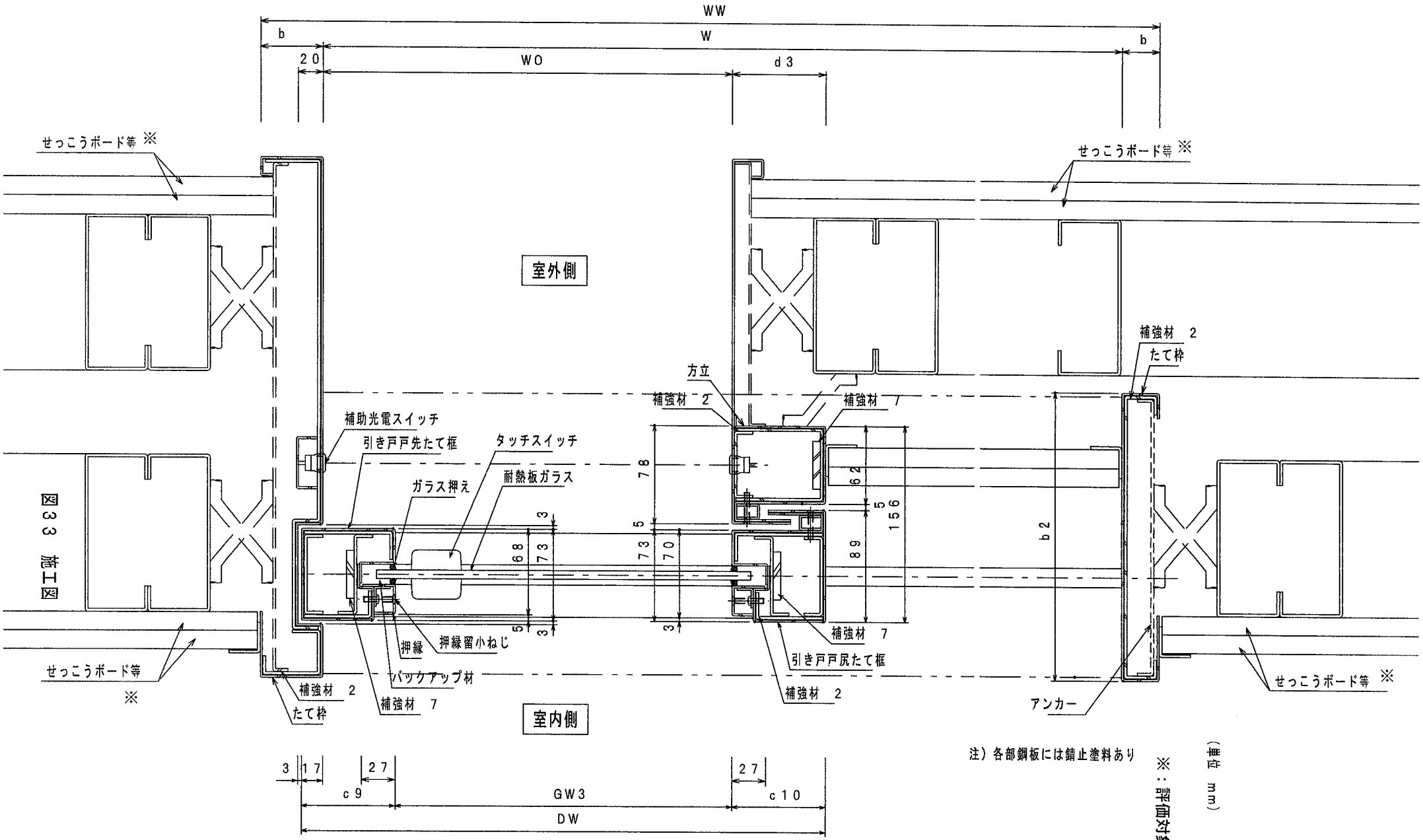
水平断面図（乾式工法、開き戸機構付、片袖ボード施工仕様）



鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構無し、片袖ボード施工仕様）注）各部鋼板には錆止塗料あり

図３２　施工図　　＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

図33 施工図



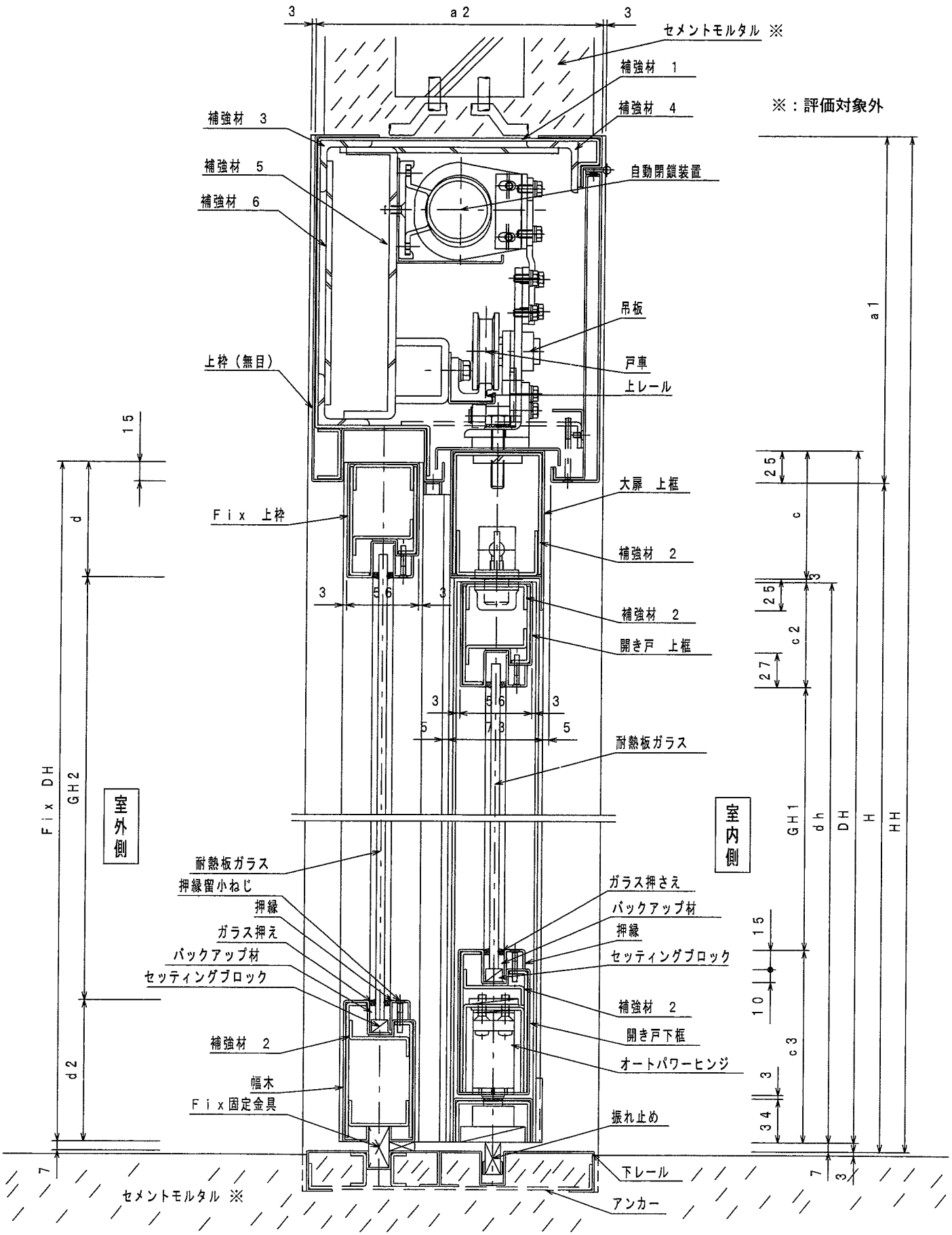
注）各部鋼板には錆止塗料あり

※：評価対象外

（単位 mm）

水平断面図（乾式工法、開き戸機構無し、片袖ボード施工仕様）

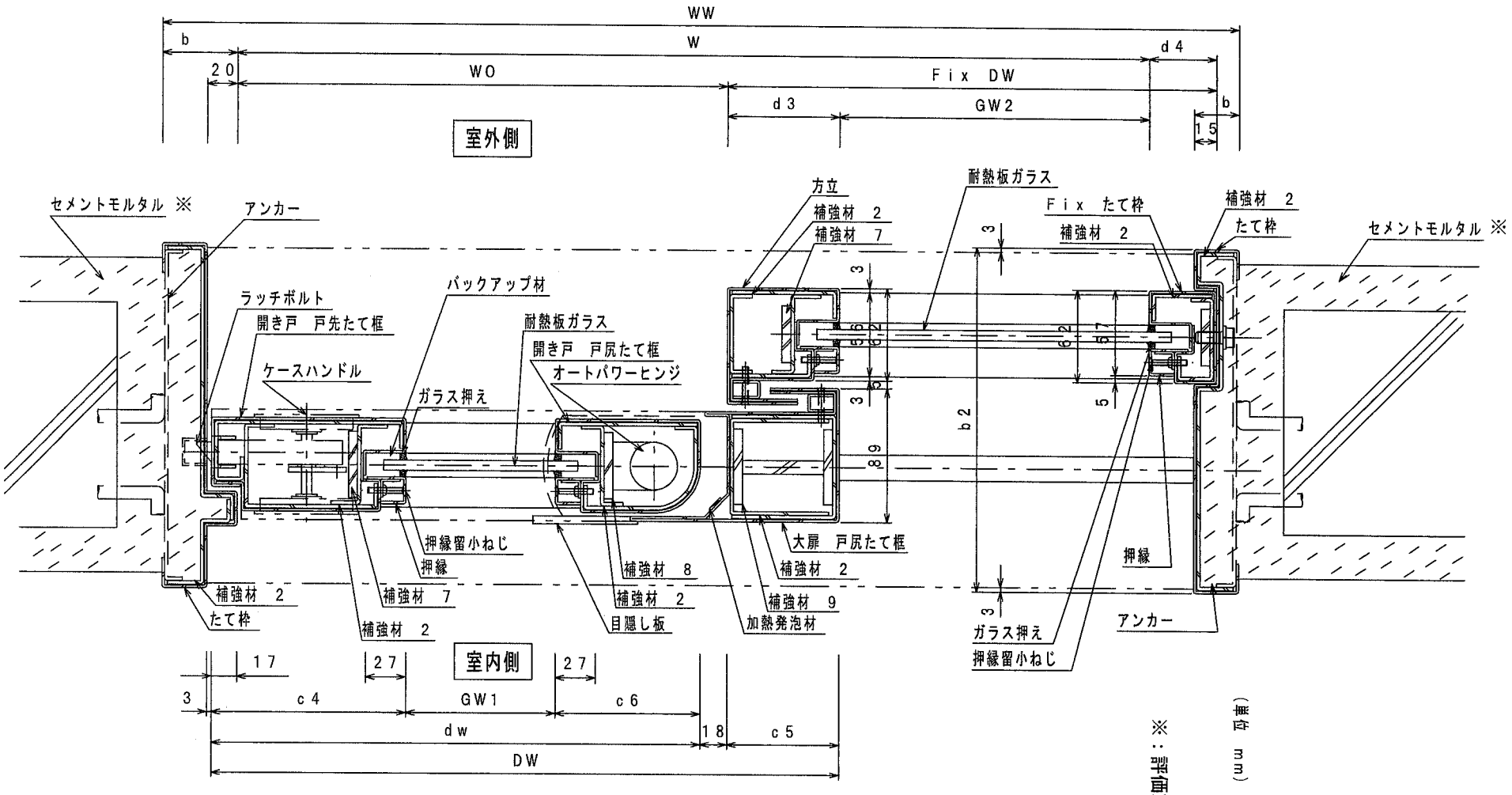
（単位　mm）



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構付　手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

図３４　施工図

図３５　施工図

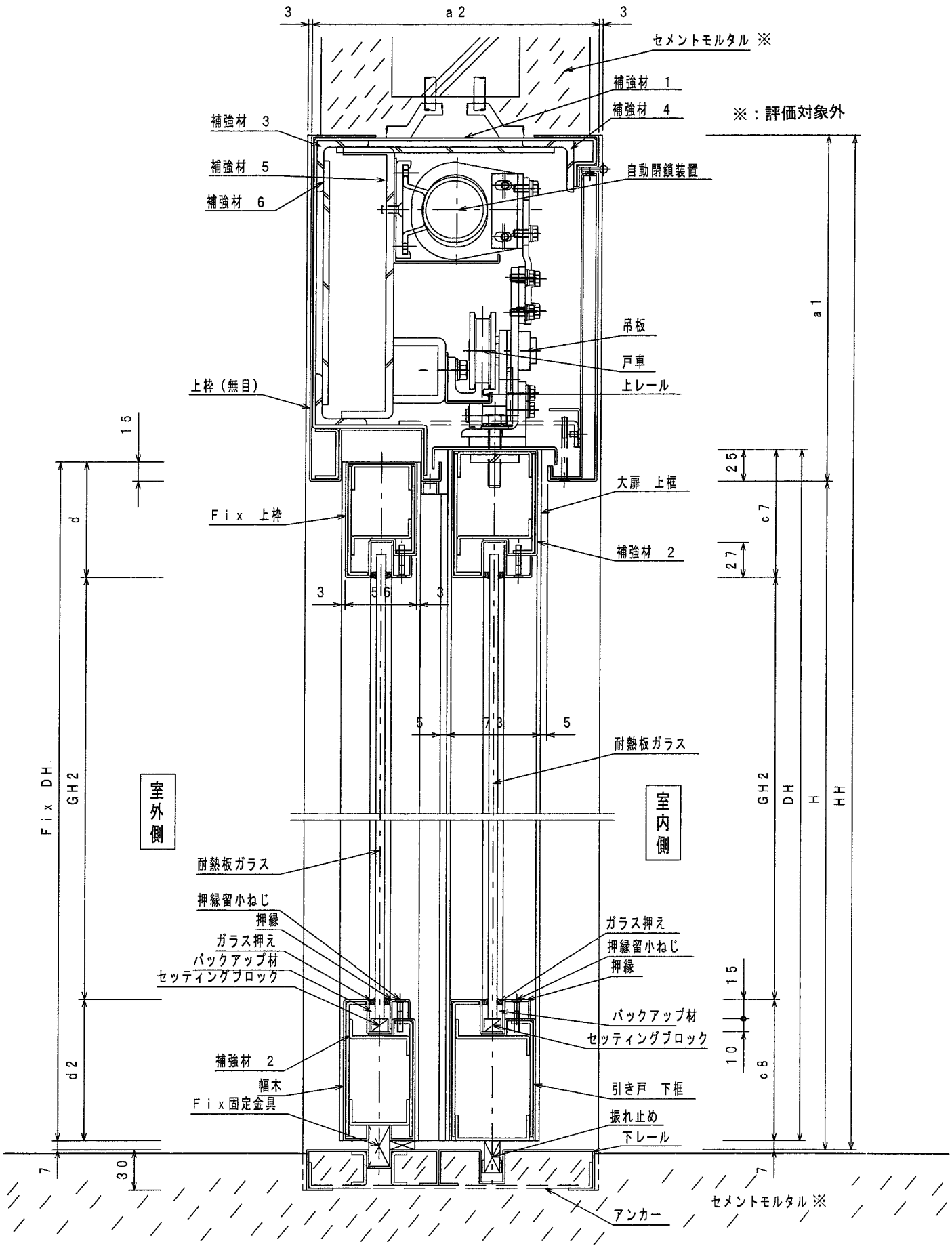


水平断面図（湿式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

（単位　ｍｍ）

※：評価対象外

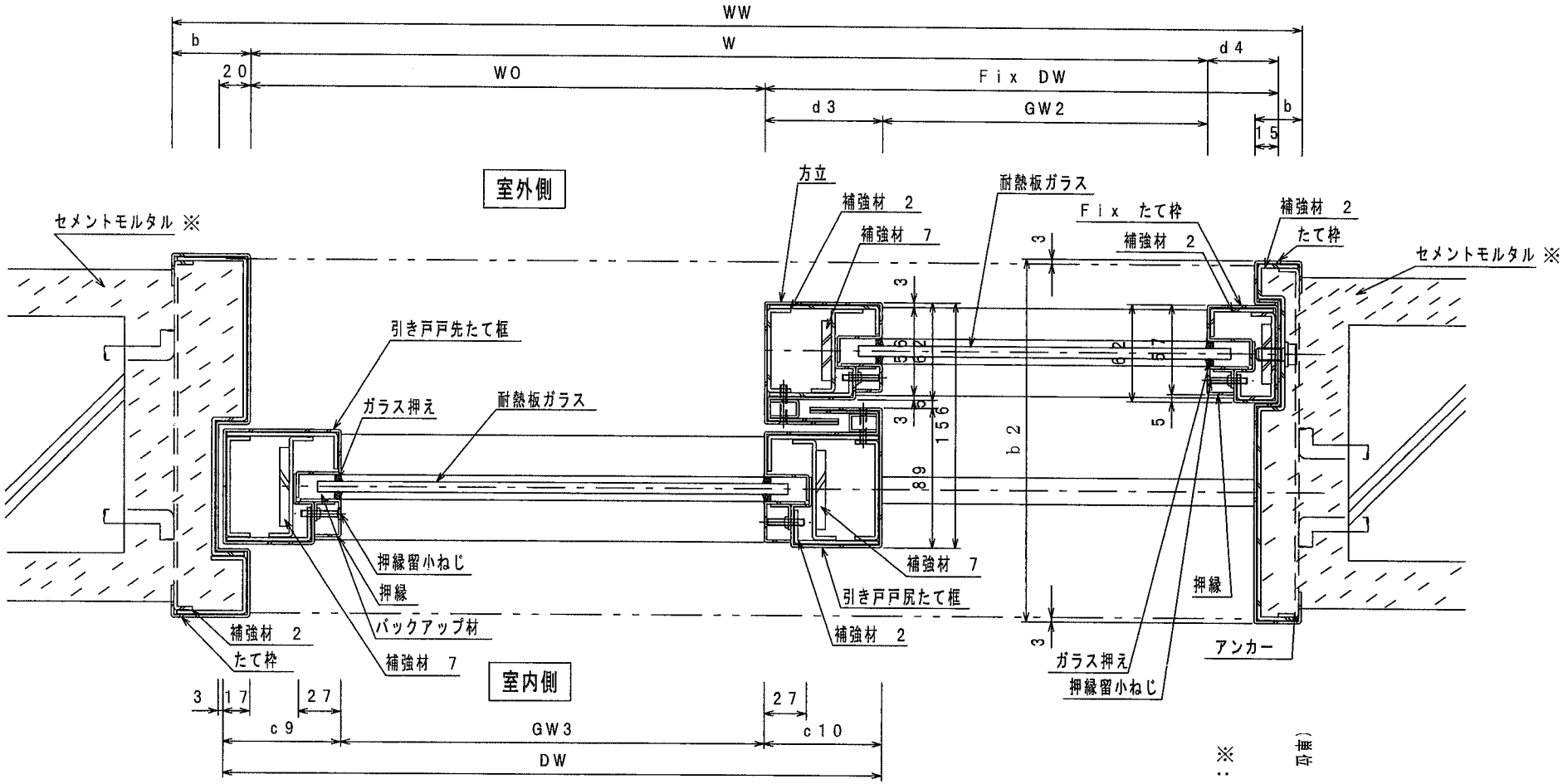
（単位　mm）



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

図３６　施工図

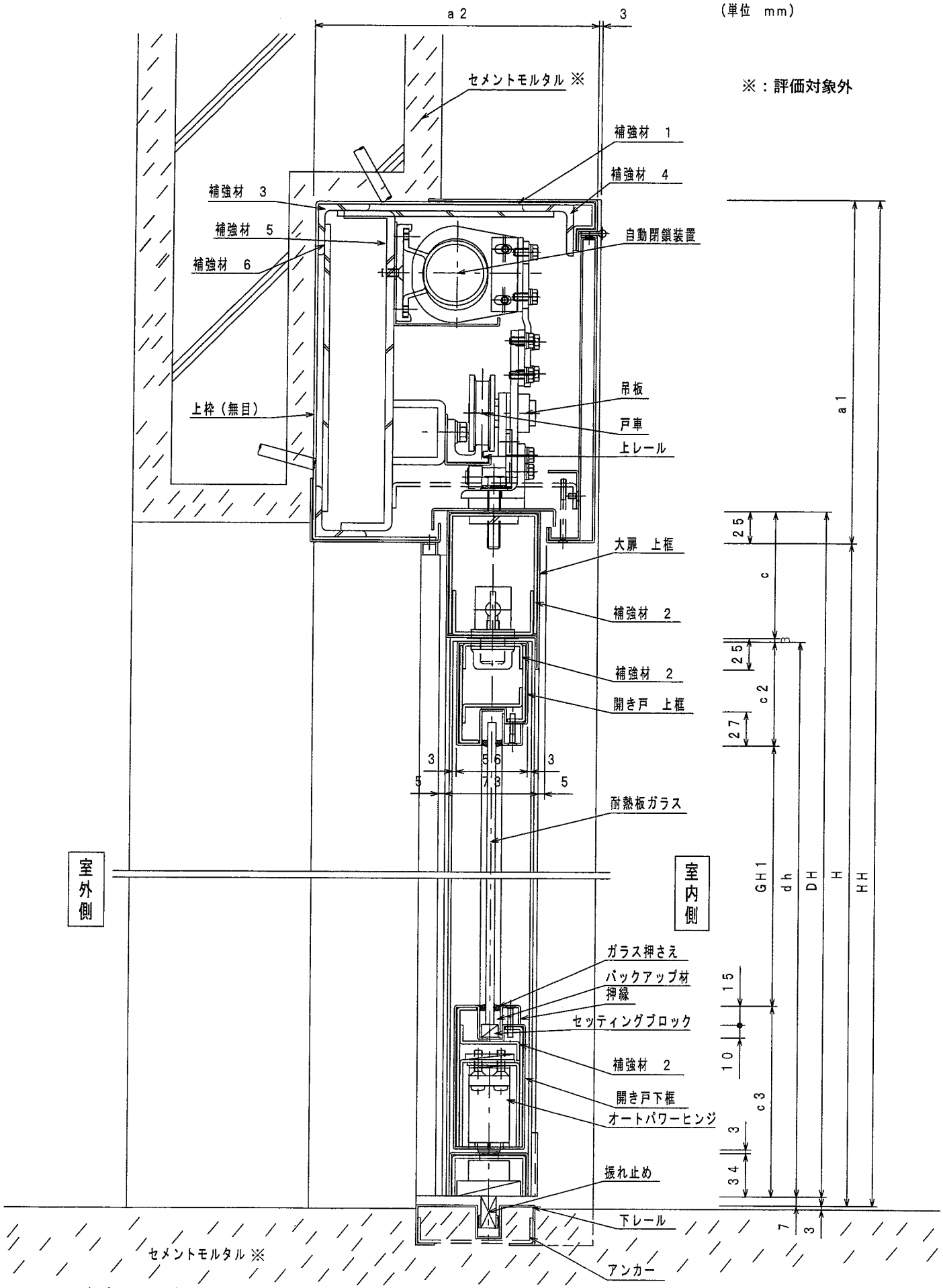
図37 施工図



水平断面図（湿式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

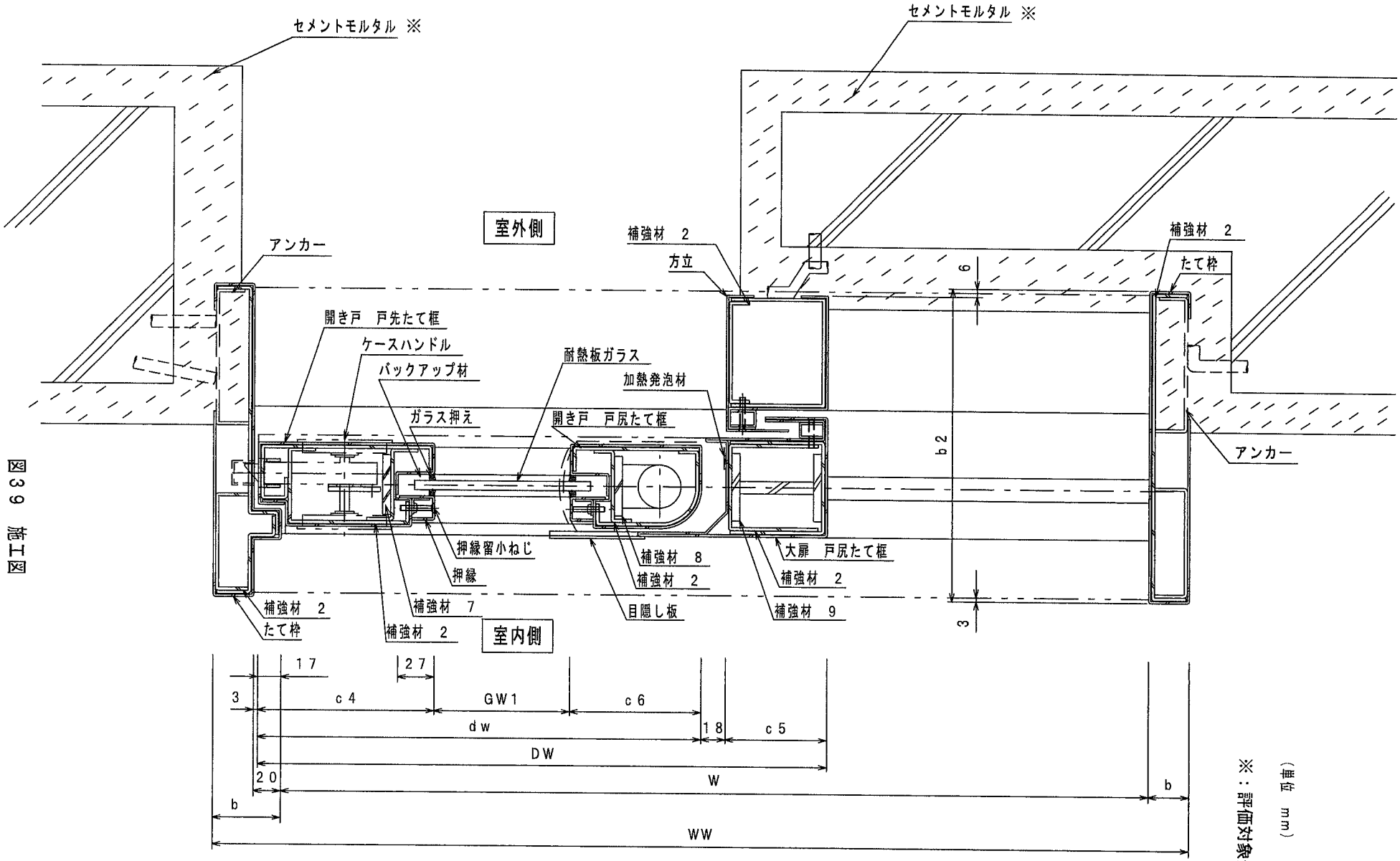
※：評価対象外



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖壁施工仕様）

図38 施工図

図３９　施工図

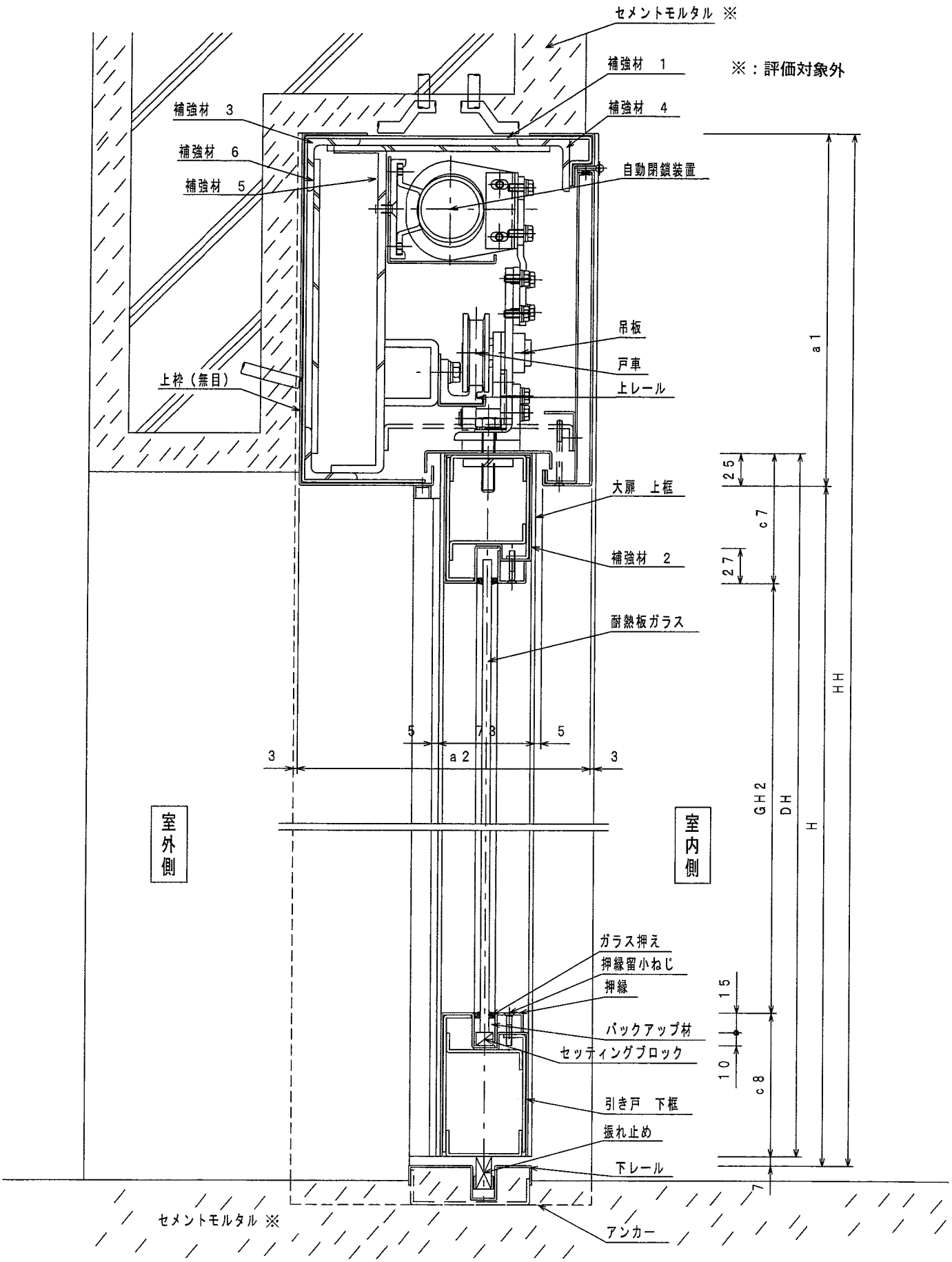


水平断面図（湿式工法、開き戸機構付き、手動引き戸、片袖壁施工仕様）

（単位　mm）

※：評価対象外

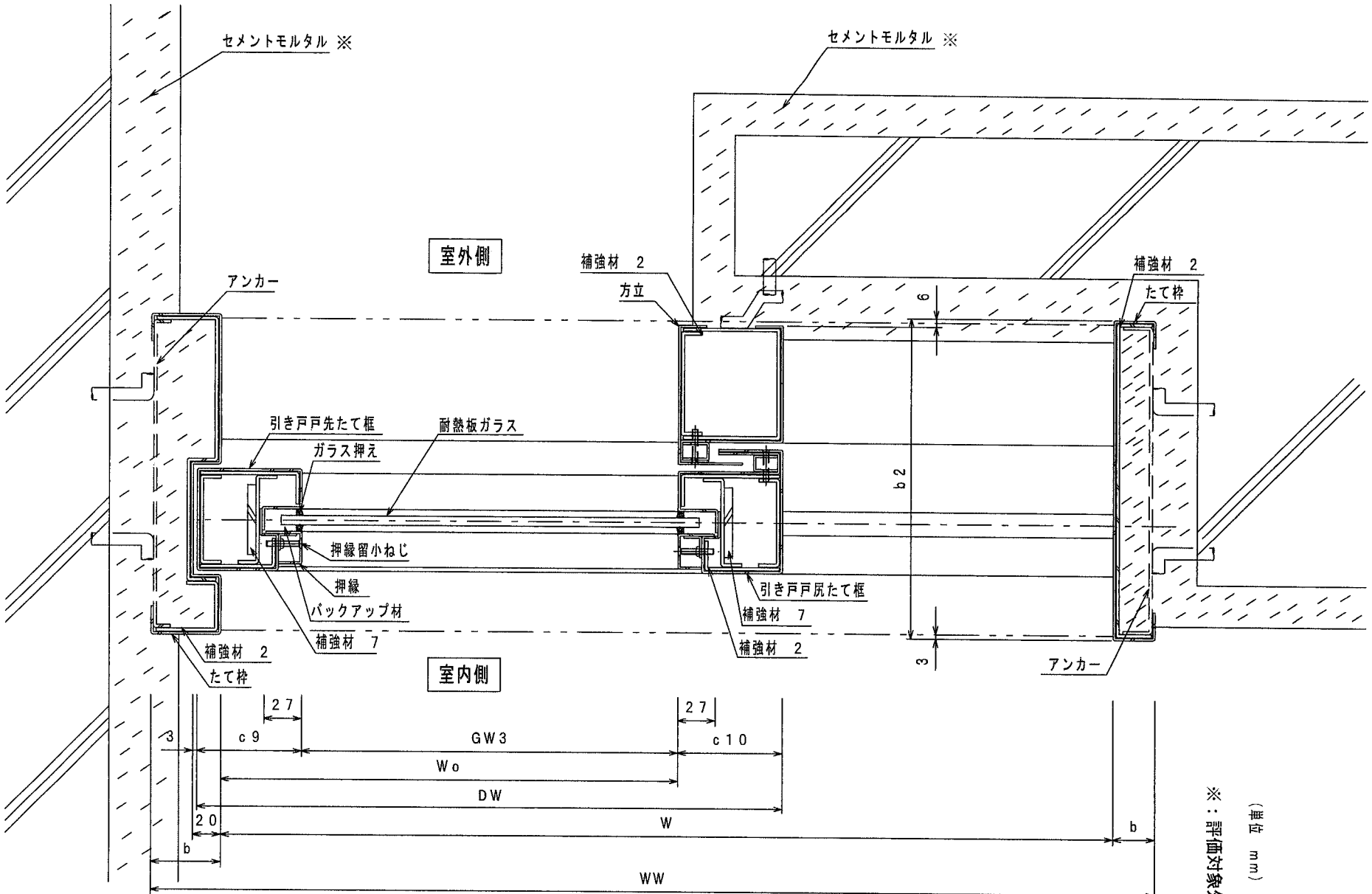
（単位　mm）



鉛直断面図（湿式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖壁施工仕様）

図４０　施工図

図41 施工図



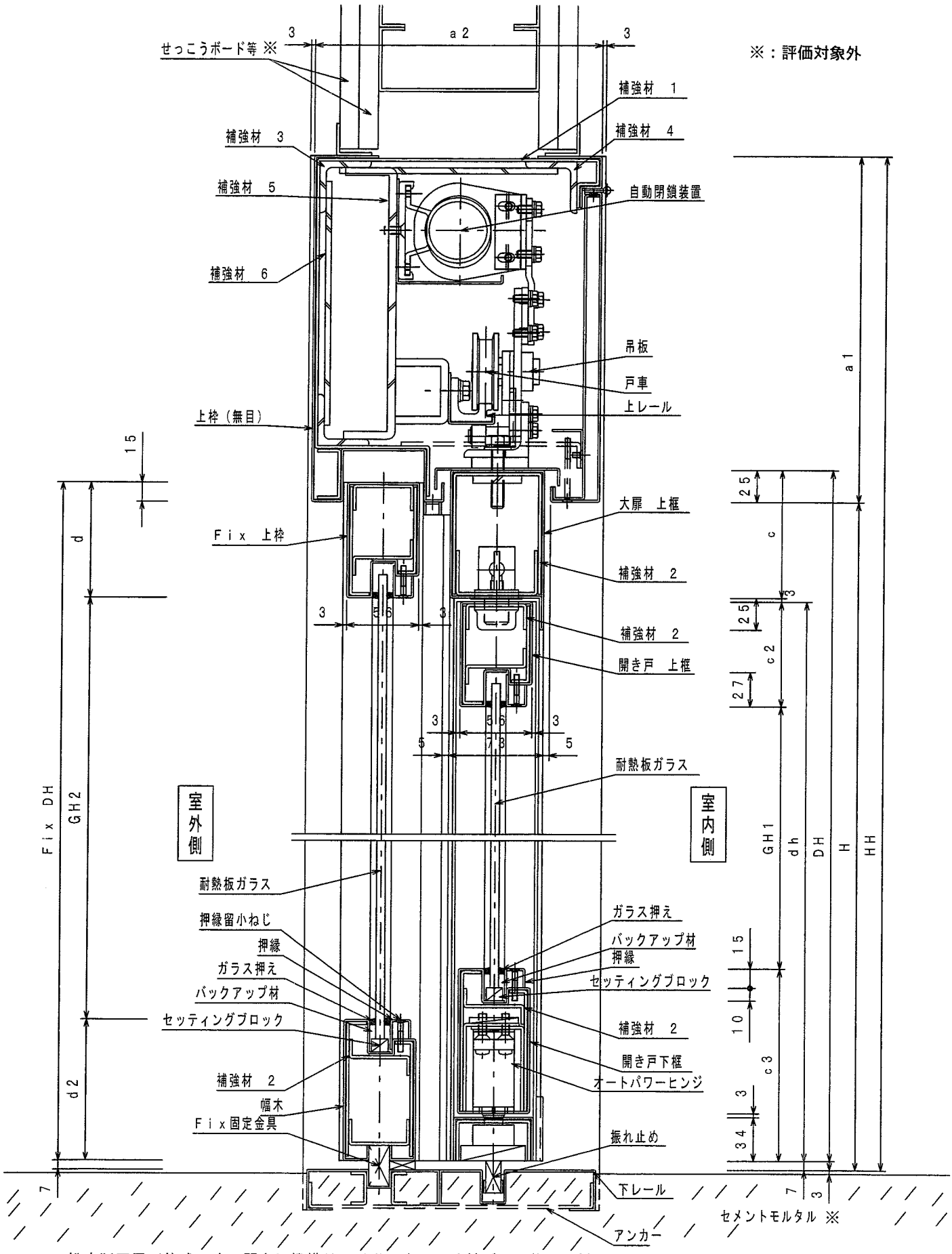
水平断面図（湿式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖壁施工仕様）

（単位 mm）

※：評価対象外

（単位　mm）

※：評価対象外

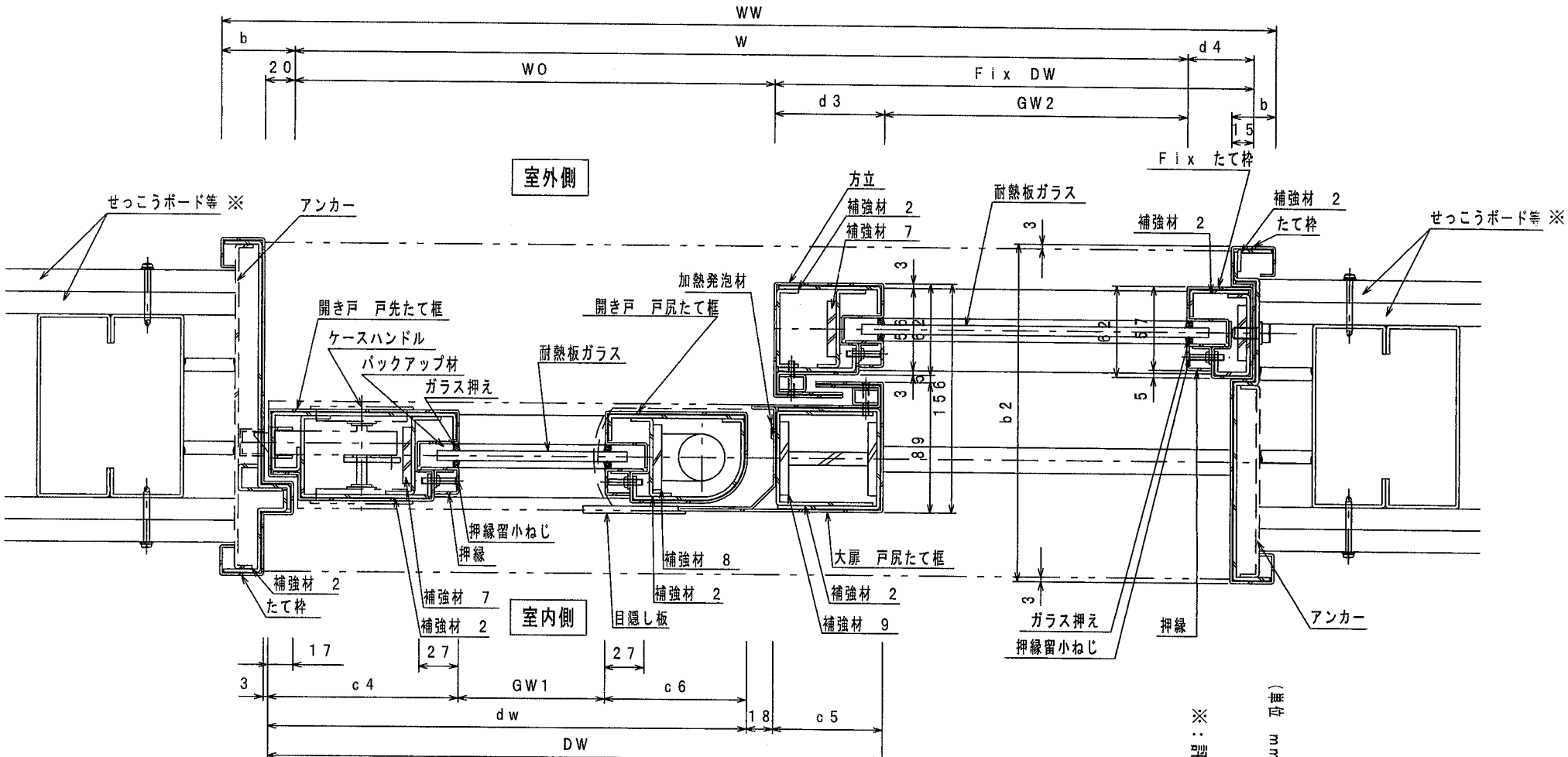


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

図４２　施工図

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

図43 施工図

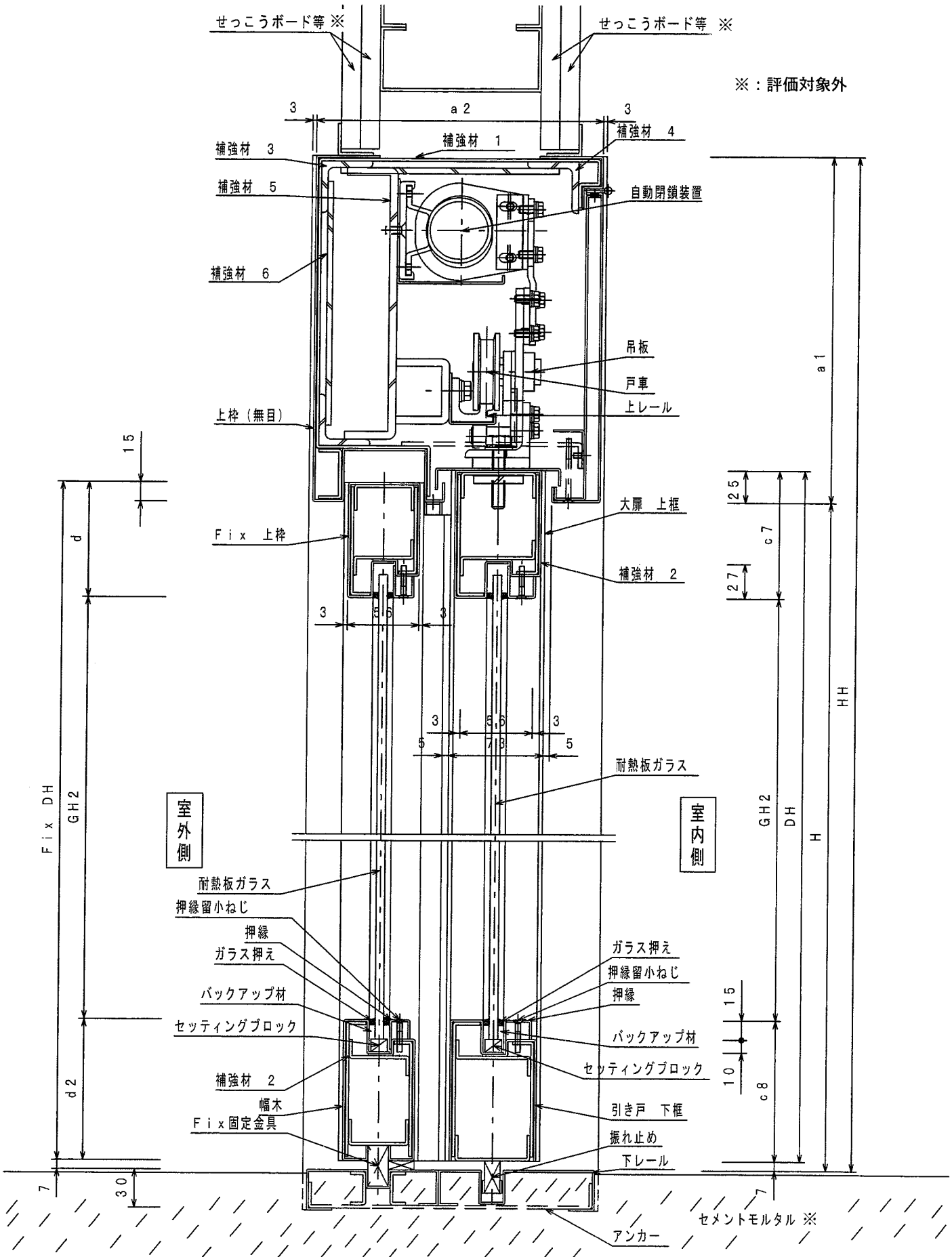


水平断面図（乾式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

※：評価対象外

（単位　mm）

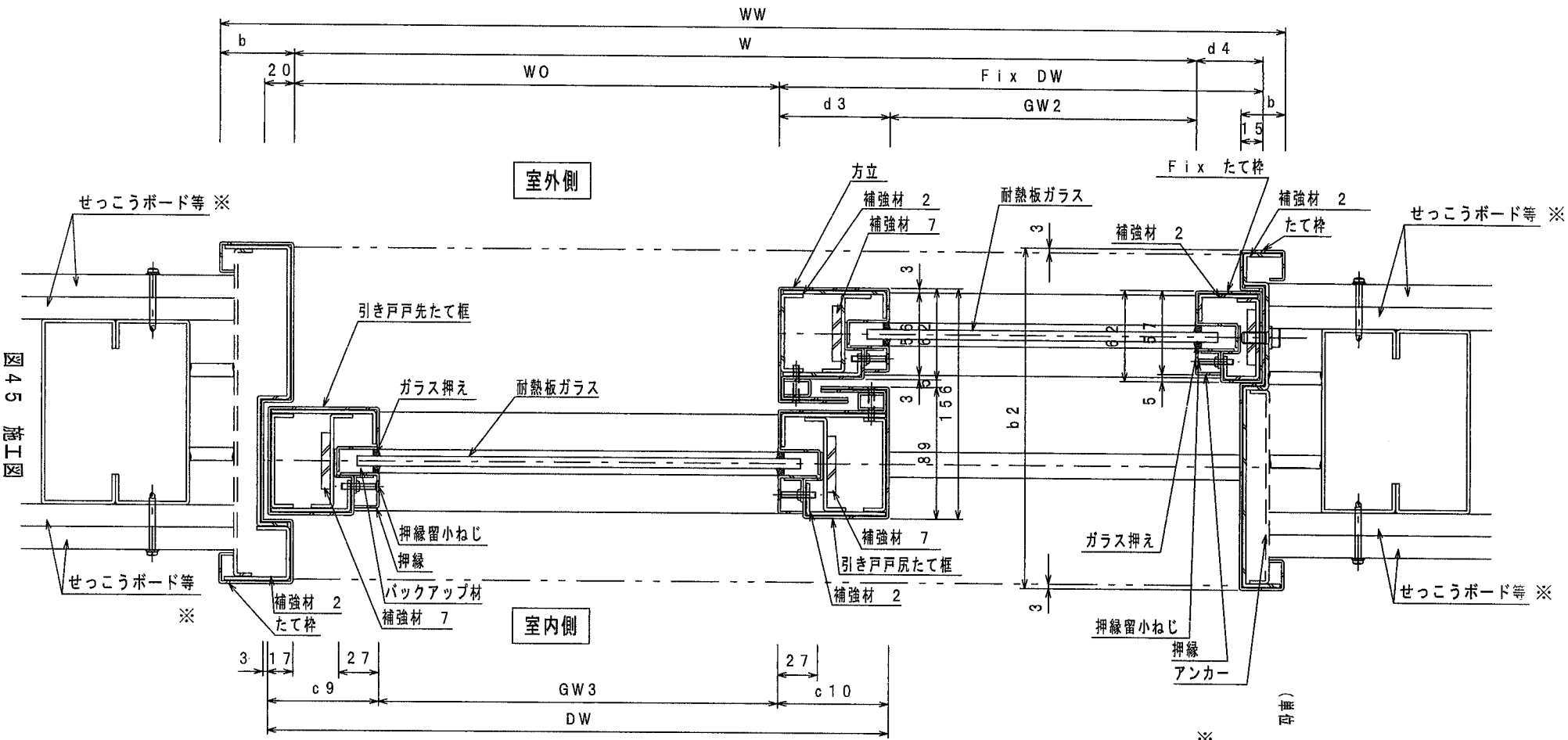


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

図４４　施工図

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

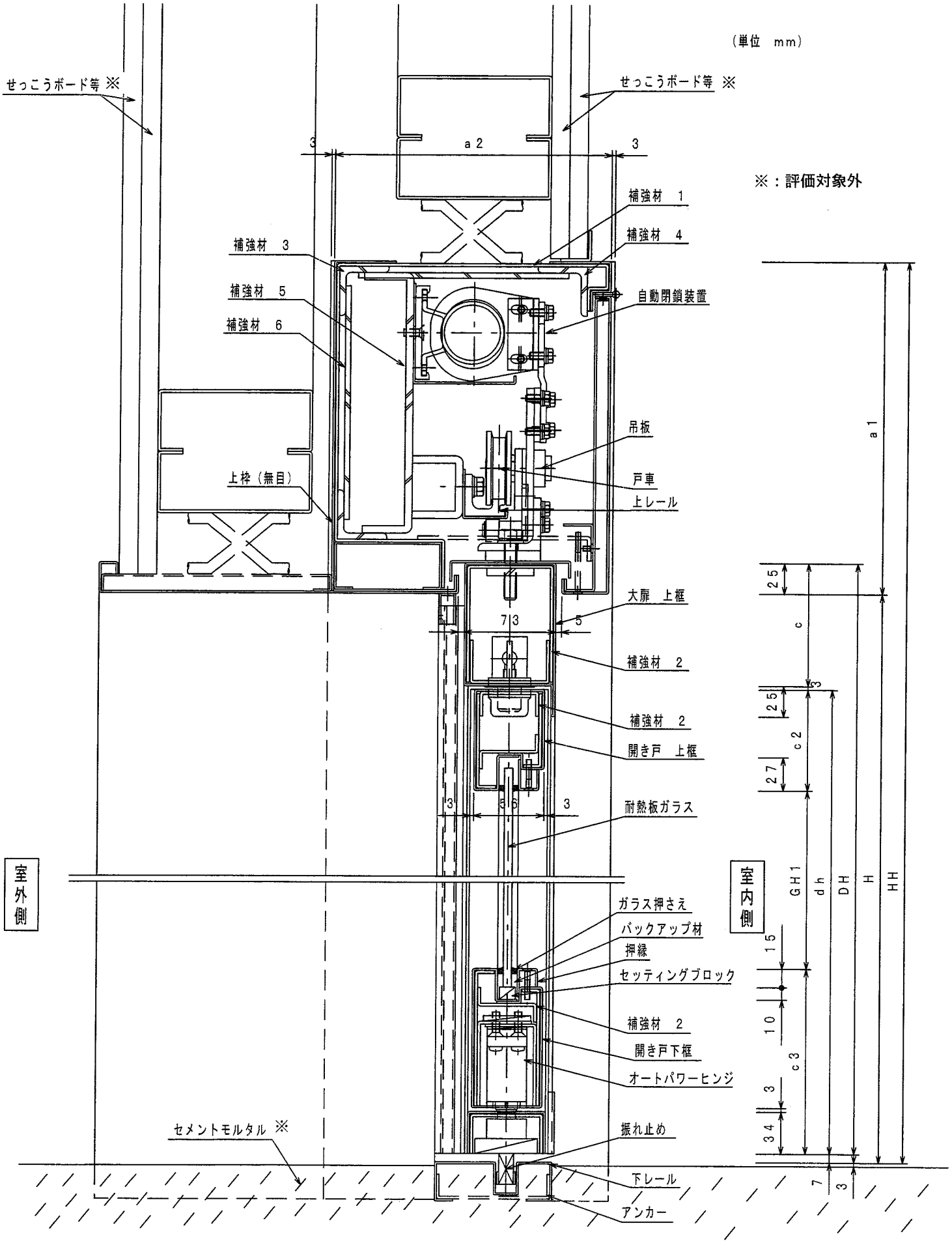
図45 詳工図



水平断面図（乾式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ガラス施工仕様）

（単位 mm）

※：評価対象外

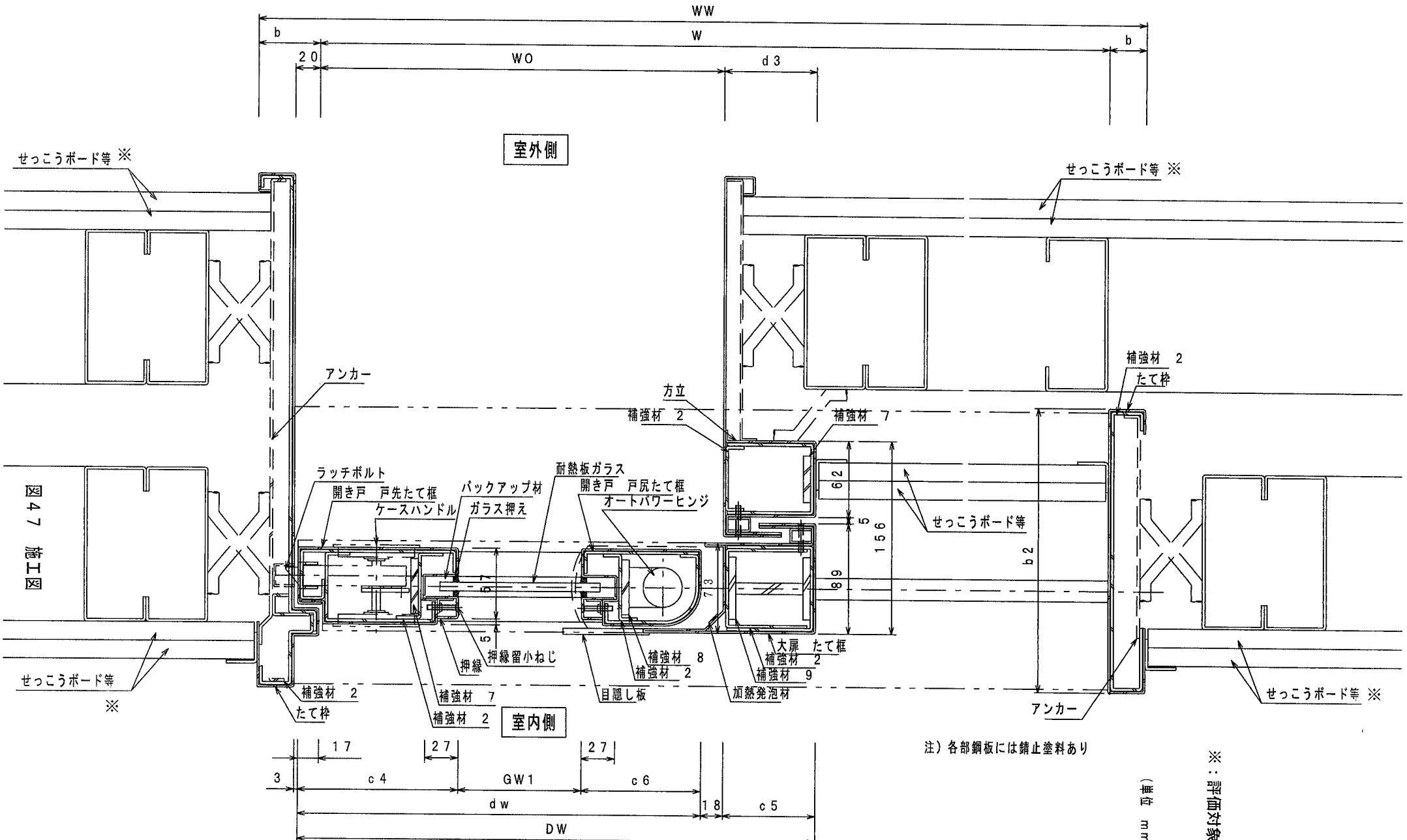


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖ボード施工仕様）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図４６　施工図　　＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）

図47 施工図

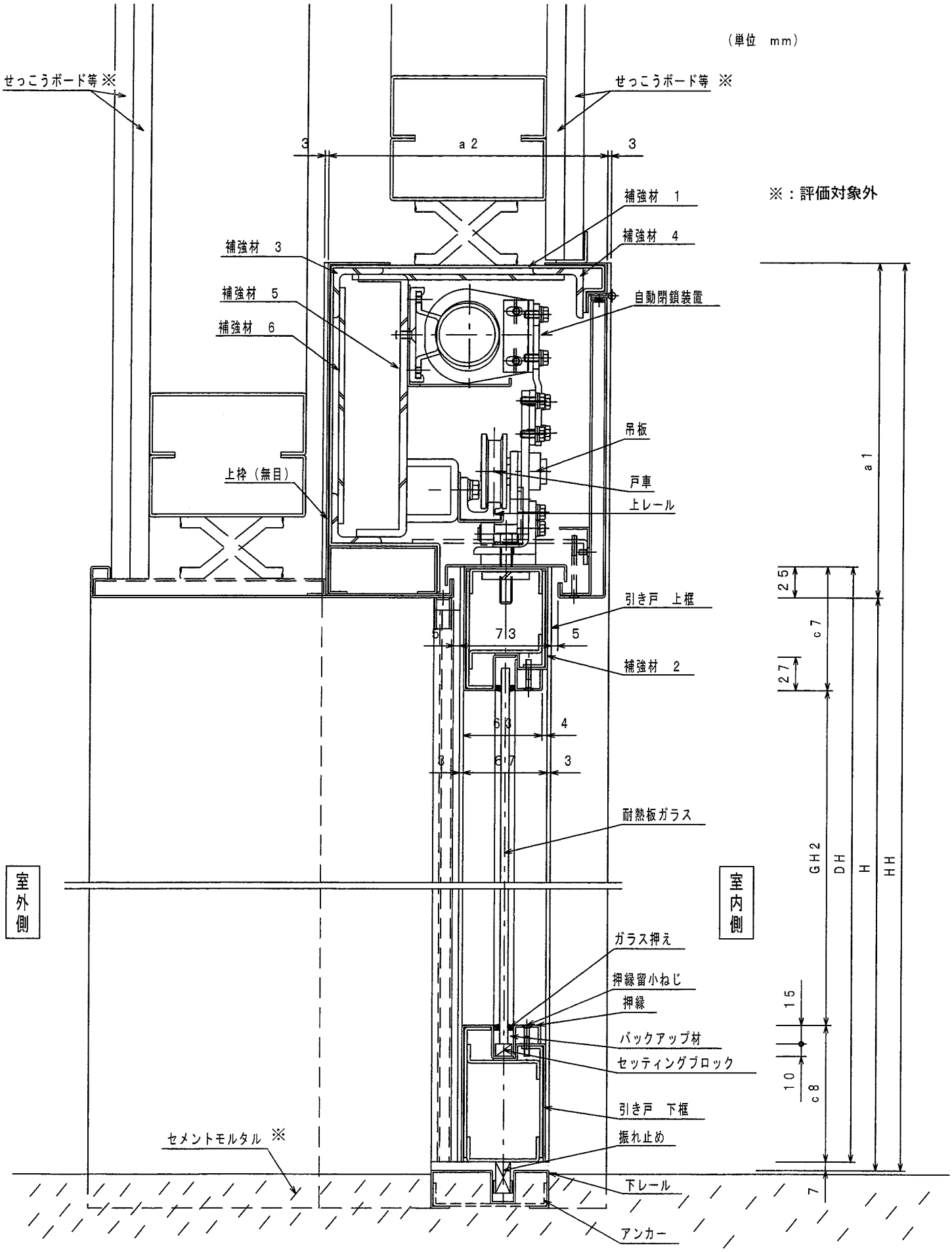


注）各部鋼板には錆止塗料あり

※：評価対象外

（単位 mm）

水平断面図（乾式工法、開き戸機構付、手動引き戸、片袖ボード施工仕様）

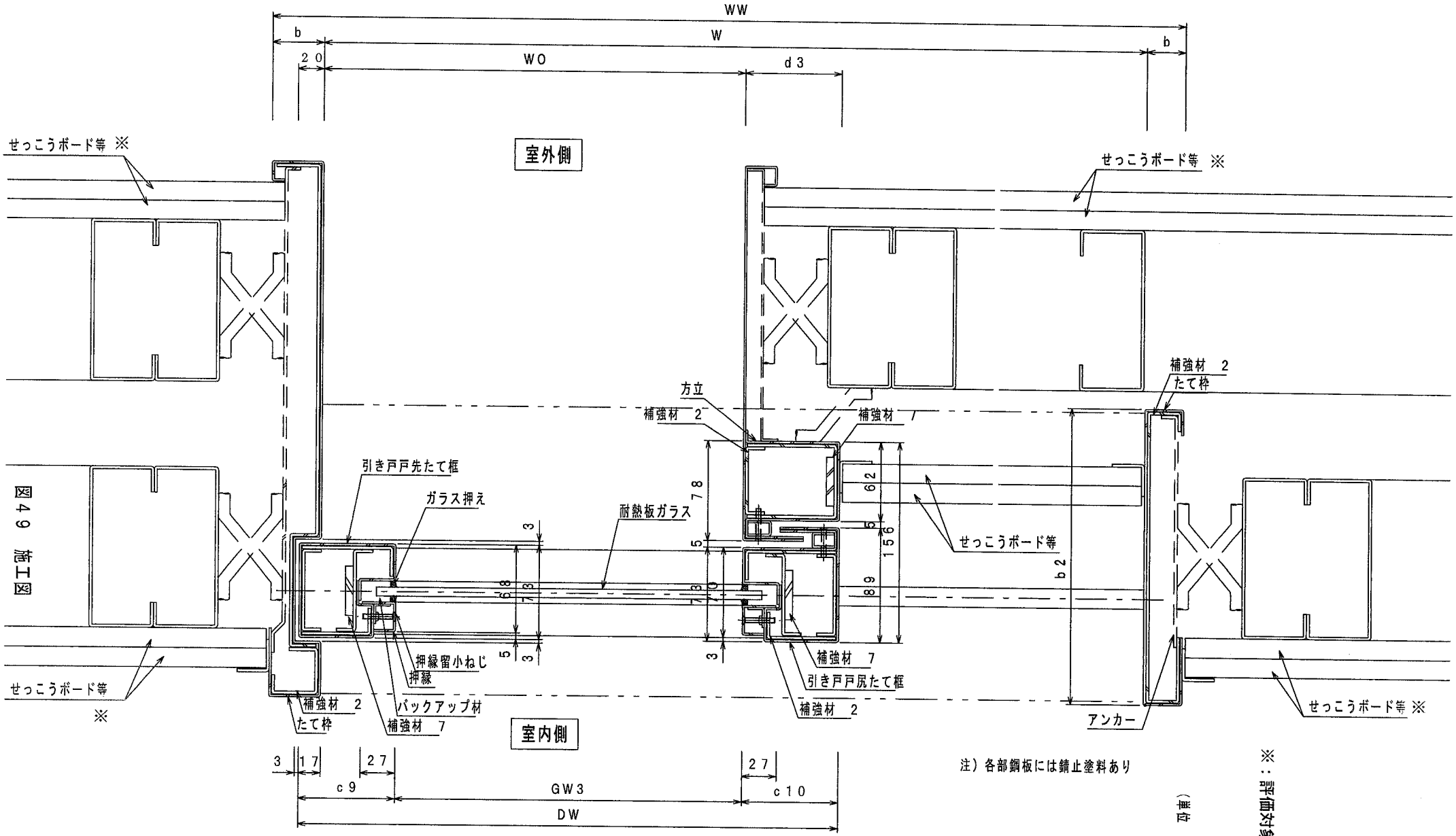


鉛直断面図（乾式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ボード施工仕様）

注）各部鋼板には錆止塗料あり

図４８　施工図

＊下部を乾式工法とする場合もある。（図５２参照）



注）各部鋼板には錆止塗料あり

（単位 mm）

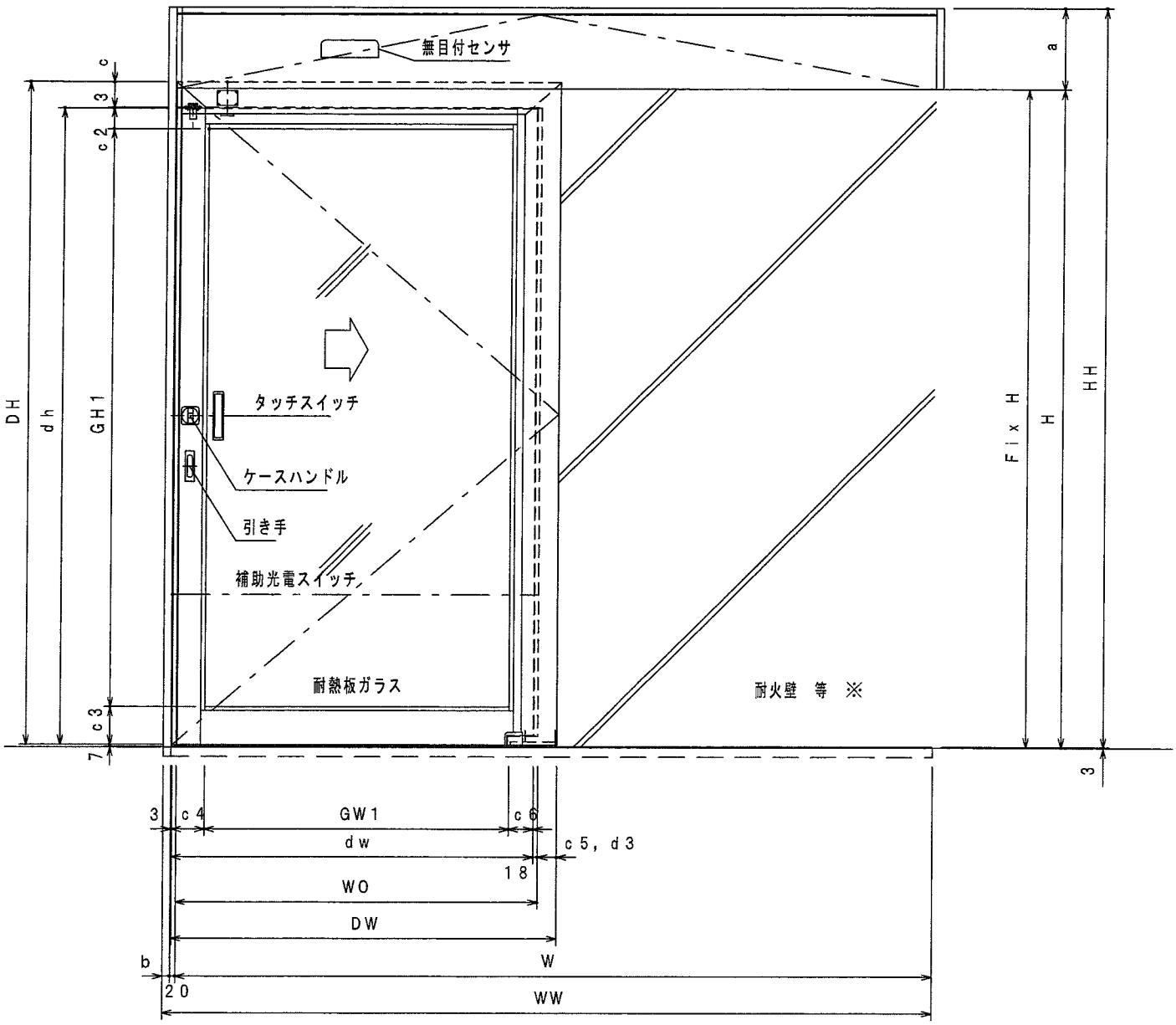
※：評価対象外

図49 施工図

水平断面図（乾式工法、開き戸機構無し、手動引き戸、片袖ボード施工仕様）

（単位　mm）

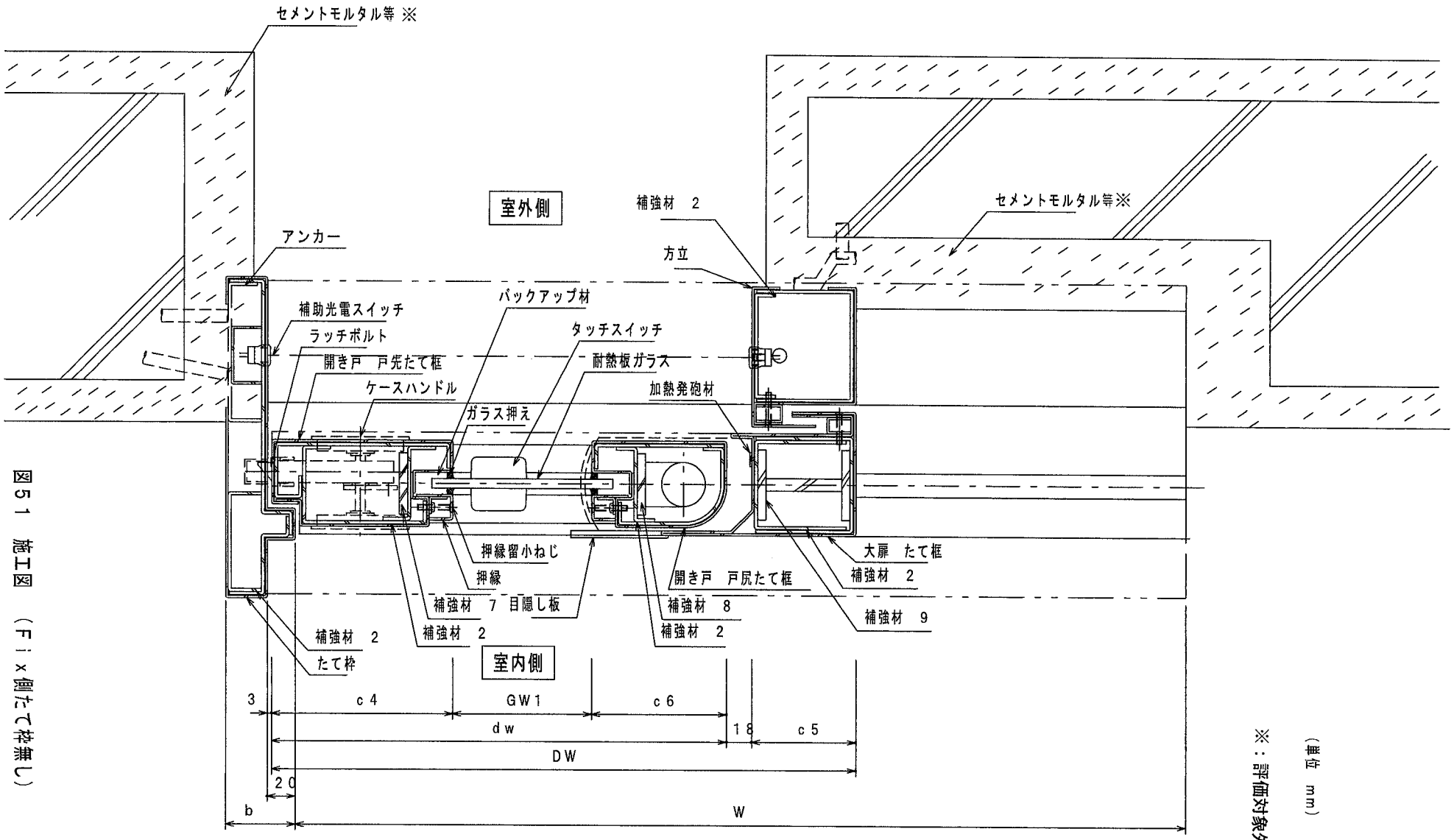
※：評価対象外



室内側立面図

図５０　内観姿図（Ｆｉｘ側たて枠無し）

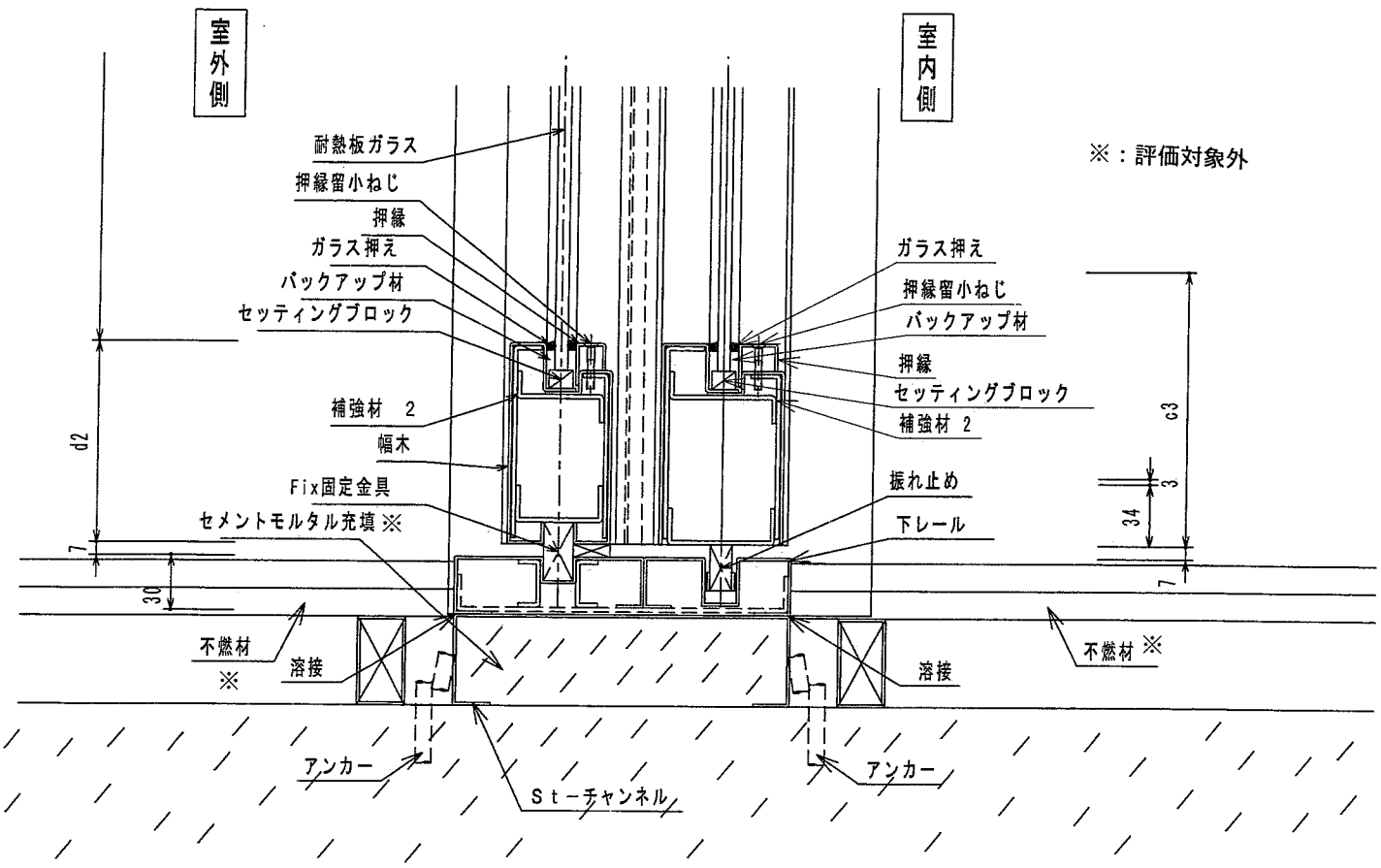
図５１　施工図　（Ｆｉｘ側たて枠兼し）



水平断面図

（単位　mm）

※：評価対象外



鉛直断面図（乾式工法、ガイドレール部施工仕様）

図52　施工図